

室蘭工業大学
卒業生（平成 20～27 年）アンケート

集計結果報告書
平成 30 年 12 月

目 次

1. 調査の概要	4
2. 調査結果の要約	7
3. 調査集計結果	10
問5. 卒業生の北海道在住割合	10
問6. 大学時代のサークル活動への参加状況	10
問7. 大学生活の充実度	11
問8. 大学時代に学んだことや経験の現在の生活における貢献度	12
問9. 在学中に身につけておくべき知識、スキル	13
問10. 自分の子供、身内に室蘭工業大学への進学を勧める意思の有無	14
問11. 12. 室蘭工業大学進学を勧める理由・勧めない理由	15
問13. これからの室蘭工業大学の教育に望む事項	17
問14. 室蘭工業大学出身で「良かった」「良くなかった」と思うこと	18
問15. 卒業後のキャンパス訪問状況	18
問16. 卒業後にキャンパスを訪問した目的	19
問17. 同窓との継続的なネットワークの有無とその状況	19
問18. 大学及び同窓会、記念事業等に対する寄付や献金の有無と今後の意向	20
問19. 大学の情報に触れる媒体	20
問20. ここ2～3年で目にした大学に関するニュース・話題(自由記述分類)	21
問21. 現在の勤務先の業種と会社内での職種、役職	22
問22-1. 就職の形式(大学推薦か自由応募か)	23
問22-2. 就職時の大学サポートの満足度	24
問22-3. 卒業時の就職先に関する満足度	25
問23. 就職時に必要だったと思うサポートの内容	26
問24. 勤務先での室蘭工業大学及び卒業生の評価	27
問25. 転職の経験の有無と回数	28
問26. 転職の主な理由	28
問27. 新たな就職先を探した手段	29
問28. 本学が転職支援サービスを提供する場合に求めるサービス内容	30
問29. 卒業生として室蘭工業大学に期待すること、意見・要望など	31

1. 調査の概要

①実施時期：平成 30 年 9 月～10 月

②対象：室蘭工業大学 平成 20 年～27 年の卒業生 2,743 名

③回答・回収状況：219 票 (回収率：8.0%)

④回答者内訳：回答者の内訳は下図表のとおり。なお、回収数を鑑み卒業生を平成 20～23 年と平成 24～27 年卒業生に区分し、必要に応じたクロス分析を行なった。

問1. 卒業(修了)した学科・専攻はどこですか(学部卒業、大学院前期(修士)修了の場合は両方)

	回答者数	合計	1. 学部：建設システム工学科	2. 学部：機械システム工学科	3. 学部：機械システム工学科(夜)	4. 学部：情報工学科	5. 学部：情報工学科(夜)	6. 学部：電気電子工学科	7. 学部：電気電子工学科(夜)	8. 学部：材料物性工学科	9. 学部：応用化学学科	
全体	219 (100.0)	310 (141.6)	18 (8.2)	29 (13.2)	2 (0.9)	10 (4.6)	2 (0.9)	21 (9.6)	2 (0.9)	17 (7.8)	15 (6.8)	
卒業年	1. 平成20年～平成23年	70 (100.0)	87 (124.3)	6 (8.6)	15 (21.4)	2 (2.9)	10 (14.3)	2 (2.9)	12 (17.1)	1 (1.4)	9 (12.9)	7 (10.0)
	2. 平成24年～平成27年	147 (100.0)	220 (149.7)	11 (7.5)	14 (9.5)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	9 (6.1)	1 (0.7)	8 (5.4)	8 (5.4)
	3. 無回答	2 (100.0)	3 (150.0)	1 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	108 (100.0)	108 (100.0)	12 (11.1)	18 (16.7)	0 (-)	8 (7.4)	0 (-)	11 (10.2)	0 (-)	7 (6.5)	10 (9.3)
	2. 夜間	11 (100.0)	14 (127.3)	0 (-)	0 (-)	2 (18.2)	0 (-)	2 (18.2)	0 (-)	2 (18.2)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	89 (100.0)	177 (198.9)	6 (6.7)	11 (12.4)	0 (-)	2 (2.2)	0 (-)	10 (11.2)	0 (-)	10 (11.2)	5 (5.6)
	4. 無回答	11 (100.0)	11 (100.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

	10. 学部：建築社会基盤系学科	11. 学部：機械航空創造系学科	12. 学部：機械航空創造系学科(夜)	13. 学部：情報電子工学系学科	14. 学部：情報電子工学系学科(夜)	15. 学部：応用理化学系学科	16. 大学院前期：建設システム工学専攻	17. 大学院前期：機械システム工学専攻	18. 大学院前期：情報電子工学専攻	19. 大学院前期：電気電子工学専攻	20. 大学院前期：材料物性工学専攻
全体	14 (6.4)	29 (13.2)	3 (1.4)	21 (9.6)	2 (0.9)	22 (10.0)	1 (0.5)	9 (4.1)	3 (1.4)	3 (1.4)	6 (2.7)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	0 (-)	1 (1.4)	0 (-)	0 (-)	1 (1.4)	0 (-)	0 (2.9)	2 (2.9)	2 (1.4)	2 (2.9)
	2. 平成24年～平成27年	14 (9.5)	27 (18.4)	3 (2.0)	21 (14.3)	1 (0.7)	22 (15.0)	1 (4.8)	7 (0.7)	1 (1.4)	4 (2.7)
	3. 無回答	0 (-)	1 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	11 (10.2)	13 (12.0)	0 (-)	8 (7.4)	0 (-)	10 (9.3)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	3 (27.3)	0 (-)	2 (18.2)	0 (-)	1 (9.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	3 (3.4)	16 (18.0)	0 (-)	13 (14.6)	0 (-)	12 (13.5)	1 (1.1)	8 (9.0)	3 (3.4)	6 (6.7)
	4. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

	21. 大学院前期：応用化学専攻	22. 大学院前期：建築社会基盤系専攻	23. 大学院前期：機械創造工学系専攻	24. 大学院前期：応用理化学系専攻	25. 大学院前期：情報電子工学系専攻	26. 大学院前期：航空宇宙システム工学専攻	27. 大学院前期：公共システム工学専攻	28. 大学院前期：数値システム工学専攻	29. 大学院前期：環境創生工学系専攻	30. 大学院前期：生産システム工学系専攻	31. 無回答
全体	0 (-)	4 (1.8)	15 (6.8)	9 (4.1)	22 (10.0)	5 (2.3)	2 (0.9)	1 (0.5)	8 (3.7)	4 (1.8)	11 (5.0)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	0 (-)	1 (1.4)	1 (1.4)	2 (2.9)	4 (5.7)	1 (1.4)	1 (-)	0 (-)	0 (-)	4 (5.7)
	2. 平成24年～平成27年	0 (-)	3 (2.0)	14 (9.5)	7 (4.8)	18 (12.2)	3 (2.0)	1 (0.7)	1 (0.7)	8 (5.4)	4 (2.7)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (18.2)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	0 (-)	4 (4.5)	15 (16.9)	9 (10.1)	20 (22.5)	5 (5.6)	2 (2.2)	1 (1.1)	8 (9.0)	4 (4.5)
	4. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	11 (100.0)

注：()内はサンプル数を100とした割合

問2. いつ大学・大学院(修士)を卒業・修了しましたか(学部卒業、大学院前期(修士)修了の場合は両方)

		回答者数	合計	1. 平成20年	2. 平成21年	3. 平成22年	4. 平成23年	5. 平成24年	6. 平成25年	7. 平成26年	8. 平成27年	9. 無回答
全体		219 (100.0)	278 (126.9)	14 (6.4)	21 (9.6)	38 (17.4)	31 (14.2)	36 (16.4)	54 (24.7)	25 (11.4)	57 (26.0)	2 (0.9)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	70 (100.0)	82 (117.1)	14 (20.0)	20 (28.6)	27 (38.6)	21 (30.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 平成24年～平成27年	147 (100.0)	194 (132.0)	0 (-)	1 (0.7)	11 (7.5)	10 (6.8)	36 (24.5)	54 (36.7)	25 (17.0)	57 (38.8)	0 (-)
	3. 無回答	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (100.0)
卒業学科・専攻	1. 昼間	108 (100.0)	110 (101.9)	9 (8.3)	9 (8.3)	18 (16.7)	9 (8.3)	17 (15.7)	20 (18.5)	10 (9.3)	17 (15.7)	1 (0.9)
	2. 夜間	11 (100.0)	14 (127.3)	0 (-)	2 (18.2)	2 (18.2)	3 (27.3)	2 (18.2)	1 (9.1)	3 (27.3)	1 (9.1)	0 (-)
	3. 大学院	89 (100.0)	138 (155.1)	3 (3.4)	9 (10.1)	14 (15.7)	19 (21.3)	15 (16.9)	30 (33.7)	10 (11.2)	37 (41.6)	1 (1.1)
	4. 無回答	11 (100.0)	16 (145.5)	2 (18.2)	1 (9.1)	4 (36.4)	0 (-)	2 (18.2)	3 (27.3)	2 (18.2)	2 (18.2)	0 (-)

注:()内はサブ№数を100とした割合

問3. 年齢(平成30年8月1日現在)

		合計	1. 25歳	2. 26歳	3. 27歳	4. 28歳	5. 29歳	6. 30歳	7. 31歳	8. 32歳	9. 33歳以上	10. 無回答
全体		219 (100.0)	18 (8.2)	25 (11.4)	40 (18.3)	29 (13.2)	26 (11.9)	19 (8.7)	24 (11.0)	24 (11.0)	14 (6.4)	0 (-)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	70 (100.0)	0 (-)	1 (1.4)	0 (-)	2 (2.9)	5 (7.1)	9 (12.9)	22 (31.4)	21 (30.0)	10 (14.3)	0 (-)
	2. 平成24年～平成27年	147 (100.0)	18 (12.2)	24 (16.3)	39 (26.5)	27 (18.4)	20 (13.6)	10 (6.8)	2 (1.4)	3 (2.0)	4 (2.7)	0 (-)
	3. 無回答	2 (100.0)	0 (-)	0 (-)	1 (50.0)	0 (-)	0 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	108 (100.0)	12 (11.1)	8 (7.4)	19 (17.6)	12 (11.1)	13 (12.0)	10 (9.3)	12 (11.1)	12 (11.1)	10 (9.3)	0 (-)
	2. 夜間	11 (100.0)	0 (-)	2 (18.2)	1 (9.1)	3 (27.3)	0 (-)	1 (9.1)	3 (27.3)	1 (9.1)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	89 (100.0)	5 (5.6)	15 (16.9)	17 (19.1)	14 (15.7)	12 (13.5)	6 (6.7)	9 (10.1)	8 (9.0)	3 (3.4)	0 (-)
	4. 無回答	11 (100.0)	1 (9.1)	0 (-)	3 (27.3)	0 (-)	1 (9.1)	2 (18.2)	0 (-)	3 (27.3)	1 (9.1)	0 (-)

注:()内はサブ№数を100とした割合

問4. 性別

		合計	1. 男性	2. 女性	3. 無回答
全体		219 (100.0)	194 (88.6)	25 (11.4)	0 (-)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	70 (100.0)	61 (87.1)	9 (12.9)	0 (-)
	2. 平成24年～平成27年	147 (100.0)	132 (89.8)	15 (10.2)	0 (-)
	3. 無回答	2 (100.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	108 (100.0)	91 (84.3)	17 (15.7)	0 (-)
	2. 夜間	11 (100.0)	11 (100.0)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	89 (100.0)	84 (94.4)	5 (5.6)	0 (-)
	4. 無回答	11 (100.0)	8 (72.7)	3 (27.3)	0 (-)

注:()内はサブ№数を100とした割合

問5. 現在お住まいの場所の都道府県名、外国の場合は国名

		合計	1. 北海道	2. 青森県	3. 岩手県	4. 宮城県	5. 秋田県	6. 山形県	7. 福島県	8. 茨城県	9. 栃木県	10. 群馬県	11. 埼玉県	12. 千葉県
全体		219 (100.0)	99 (45.2)	1 (0.5)	3 (1.4)	5 (2.3)	2 (0.9)	0 (-)	3 (1.4)	4 (1.8)	3 (1.4)	0 (-)	7 (3.2)	4 (1.8)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	70 (100.0)	35 (50.0)	1 (1.4)	1 (1.4)	1 (1.4)	0 (-)	0 (-)	1 (1.4)	0 (-)	1 (1.4)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 平成24年～平成27年	147 (100.0)	64 (43.5)	0 (-)	2 (1.4)	4 (2.7)	1 (0.7)	0 (-)	2 (1.4)	4 (2.7)	2 (1.4)	0 (-)	7 (4.8)	4 (2.7)
	3. 無回答	2 (100.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	108 (100.0)	53 (49.1)	1 (0.9)	2 (1.9)	1 (0.9)	2 (1.9)	0 (-)	2 (1.9)	2 (1.9)	2 (1.9)	0 (-)	2 (1.9)	0 (-)
	2. 夜間	11 (100.0)	6 (54.5)	0 (-)	1 (9.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (9.1)	0 (-)
	3. 大学院	89 (100.0)	37 (41.6)	0 (-)	0 (-)	2 (2.2)	0 (-)	0 (-)	0 (2.2)	2 (2.2)	1 (1.1)	0 (-)	4 (4.5)	3 (3.4)
	4. 無回答	11 (100.0)	3 (27.3)	0 (-)	0 (-)	2 (18.2)	0 (-)	0 (-)	1 (9.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (9.1)

		13. 東京都	14. 神奈川県	15. 新潟県	16. 富山県	17. 石川県	18. 福井県	19. 山梨県	20. 長野県	21. 岐阜県	22. 静岡県	23. 愛知県	24. 三重県	25. 滋賀県
全体		19 (8.7)	15 (6.8)	3 (1.4)	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (-)	1 (0.5)	2 (0.9)	4 (1.8)	5 (2.3)	14 (6.4)	4 (1.8)	1 (0.5)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	6 (8.6)	4 (5.7)	0 (-)	0 (-)	1 (1.4)	0 (-)	0 (-)	1 (1.4)	1 (1.4)	2 (2.9)	3 (4.3)	2 (2.9)	0 (-)
	2. 平成24年～平成27年	13 (8.8)	11 (7.5)	3 (2.0)	1 (0.7)	0 (-)	0 (-)	1 (0.7)	1 (0.7)	3 (2.0)	3 (2.0)	10 (6.8)	2 (1.4)	1 (0.7)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (50.0)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	9 (8.3)	5 (4.6)	2 (1.9)	1 (0.9)	1 (0.9)	0 (-)	0 (-)	1 (0.9)	3 (2.8)	3 (2.8)	9 (8.3)	1 (0.9)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (9.1)
	3. 大学院	8 (9.0)	10 (11.2)	1 (1.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (1.1)	1 (1.1)	1 (1.1)	2 (2.2)	5 (5.6)	3 (3.4)	0 (-)
	4. 無回答	2 (18.2)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

		26. 京都府	27. 大阪府	28. 兵庫県	29. 奈良県	30. 和歌山県	31. 鳥取県	32. 島根県	33. 岡山県	34. 広島県	35. 山口県	36. 徳島県	37. 香川県	38. 愛媛県
全体		0 (-)	0 (-)	6 (2.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.5)	2 (0.9)	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (-)	0 (-)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	0 (-)	0 (-)	4 (5.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (1.4)	1 (1.4)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 平成24年～平成27年	0 (-)	0 (-)	2 (1.4)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.7)	1 (0.7)	0 (-)	1 (0.7)	0 (-)	0 (-)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	0 (-)	0 (-)	2 (1.9)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.9)	1 (0.9)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	1 (9.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	0 (-)	0 (-)	2 (2.2)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (1.1)	1 (1.1)	0 (-)	1 (1.1)	0 (-)	0 (-)
	4. 無回答	0 (-)	0 (-)	1 (9.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

		39. 高知県	40. 福岡県	41. 佐賀県	42. 長崎県	43. 熊本県	44. 大分県	45. 宮崎県	46. 鹿児島県	47. 沖縄県	48. 外国	49. 無回答
全体		0 (-)	1 (0.5)	0 (-)	1 (0.5)	0 (-)	2 (0.9)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	3 (1.4)	0 (-)
卒業年	1. 平成20年～平成23年	0 (-)	1 (1.4)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (1.4)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (2.9)	0 (-)
	2. 平成24年～平成27年	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.7)	0 (-)	0 (0.7)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (0.7)	0 (-)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学科・専攻	1. 昼間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (1.9)	0 (-)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (9.1)	0 (-)
	3. 大学院	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (1.1)	0 (-)	2 (2.2)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
	4. 無回答	0 (-)	1 (9.1)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

注：()内はサンプル数を100とした割合

2. 調査結果の要約

- 平成 30 年度調査回答卒業生（以下：「卒業生」と記す）の北海道在籍割合は 45.2%となっている。なお、卒業生で北海道以外の在住者が 5%を超えるのは、東京都 8.7%、神奈川県 6.8%、愛知県 6.4%となっている。（問 5）
- 卒業生の学生時代は 68.5%がクラブや・サークルに所属していて、振り返ってみると 82.2%が学生時代の生活は全体として「非常に充実していた」または「充実していた」と回答している。（問 6、7）
- 大学時代に学んだことや経験の現在の生活における貢献度で、「非常に役立っている」「役立っている」を合せて、最も高いのは「ゼミ」64.1%、次いで「アルバイト」62.8%、「専門科目」61.6%となっている。（問 8）
- 卒業生が在学中に身につけておくべきだったと考えている知識、スキルに関しては、全体で「専門的知識」が 39.7%でトップ。次いで「語学力」38.4%、「各種資格の取得」26.9%となっている。（問 9）
- 自分の子供、身内に本学への進学を勧めたいと思っている卒業生の割合は全体で 51.6%。（問 10）
- 今回調査において自分の子供、身内に本学進学を勧める理由としては「国立大学である」が 84.1%でトップ。その他「就職に有利」46.9%、「自分の母校だから」23.0%と続いている。逆に、進学を勧めない理由としては、「本人が決めることだから」73.5%が最も多い。次いで「自宅から通えない」17.6%となっている。（問 11、12）
- 卒業生が望む本学の教育内容・方向性については、「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力のような一般的な能力を養うカリキュラム」47.0%、次いで「専門実務的な能力が身につくようなカリキュラム」42.0%、「技術者、研究者としての誇りや意欲を高め社会へ貢献できる人間を目指した教育」40.6%となっている。（問 13）
- 卒業生が本学出身で「良かったと思う点」で記載の多さが目立つのは、「入社した会社に先輩がいて心強かった」「友人に恵まれた。深い交友関係を築けた」、「専門的な知識を身につけ、業務に活かすことができた」、「就職に有利」、「国立大学である」等である。
逆に良くなかった点としては、「（北海道以外では）知名度が低い」、「他校（ほかの大学・専門学校）や企業との接点が少なかった」、「語学を身につける授業が充実していない」、「交通が不便、周囲になにもない」等が挙げられている。巻末に全文を掲載した。（問 14）

- 卒業後に1回以上キャンパスを訪れたことのある卒業生は、全体で66.2%。卒業後にキャンパスを訪問した目的としては、「ゼミの先生や仲間に会いに」が40.6%で最も多い。次いで「後輩のクラブ活動の指導で」10.0%、「大学祭・同窓会などで」5.5%の順になっている。(問15、16)
- 同窓との継続的なつながりを持っている卒業生は全体の72.2%。具体的なつながりとしては、「先輩・同期・後輩とのプライベートな繋がりがある」が59.4%で最も多い。次いで「クラブ・サークル・ゼミの集まりに参加している」16.0%となっている。(問17)
- 本学に寄付や献金をしたことがある卒業生は、全体の11.0%。「したことはないがしたい意思はある」者も12.8%存在する。(問18)
- 本学の情報に触れる主な媒体としては、「室蘭工業大学のホームページ」が54.8%と最も多い。これまでの調査と比較しても大きな変化は見られない。(問19)
- ここ2～3年で目にした大学に関するニュース・話題としては、自由記述で「パワハラ・セクハラによる教員の処分」「工学部の学部再編」「共同研究とその受賞」「超音速無人機の研究」ほか多くが挙げられている。(問20)
- 卒業生の勤務先の業種としては、「製造業」39.3%がトップ。次いで「建設業」17.4%、「情報通信業」11.0%、「公務」10.0%となっている。社内での職種としては、「専門的・技術的職業従事者」が65.4%と圧倒的に多い。(問21)
- 卒業生が就職した際の形式は、「大学推薦」が全体の37.4%。就職時の大学側のサポートについて、「充分であった」「普通」の合計は全体で76.2%となっている。(問22-1、問22-2)
- 卒業時の就職先についての満足度については、「大変満足だった」「概ね満足だった」を合わせて76.7%。平成20～23年卒業生と平成24～27年卒業生の比較で見ると、平成24～27年卒業生の方が若干満足度が高くなっている。(問22-3)
- 就職時の大学側のサポートが「もの足りなかった」と回答した卒業生が考えるサポートの種類や項目は、「もっと多くの企業、団体等の紹介、情報提供をしてほしかった」が43.2%で最も多い。(問23)

- 勤務先における本学と卒業生に対する評価について、「非常に高い評価を受けていると感じる」「やや高い評価を受けていると感じる」を合わせた肯定回答の割合は、全体で 40.2%。これまでの調査と比較して大きな変化は把握できない。(問 24)
- 転職経験のある卒業生の割合は、20.1%。平成 20～23 年卒業生で 30.0%、平成 24～27 年卒業生では 15.0%となっている。(問 25)
- 転職の主な理由として最も多いのは「他にやりたい仕事が見つかった」34.1%、次いで「自分の可能性を追求してみたかった」31.8%となっている。(問 26)
- 新たな就職先を探す手段としては、1 回目は「民間の職業紹介所に登録し、紹介を受けた」が 18.2%で最も多く、次いで「新聞、転職情報誌などの求人情報」15.9%、「ハローワークで紹介してもらった」11.4%となっている。(問 27)
- 本学が卒業生に対して転職支援サービスを提供するとした場合に求めるサービス内容としては、「求人情報」が 65.3%で最も多く、「資格試験、公務員講座を開設し、卒業生にも開放してほしい」32.0%、「室蘭工業大学で行われる就職ガイダンス(面接試験の受け方などを含む)、企業セミナー等を、卒業生にも開放してほしい」20.5%の順になっている。(問 28)
- 卒業生として室蘭工業大学に期待すること、意見・要望などについては回答者 219 名の内 74 名から具体的な記述があった。大まかな分類の上、巻末に掲載した。(問 29)

以上

3. 調査集計結果

問5. 卒業生の北海道在住割合

平成30年度調査回答卒業生(以下:「卒業生」と記す)の北海道在住割合は45.2%となっている。

なお、卒業生で北海道以外の在住者が5%を超えるのは、下図表のとおり東京都8.7%、神奈川県6.8%、愛知県6.4%となっている。

問5. 現在お住まいの場所の都道府県名、外国の場合は国名

	北海道	東京都	神奈川県	愛知県	埼玉県	茨城県	千葉県	栃木県	兵庫県
平成18年度[290]	50.3	7.6	7.6	4.1	4.5	3.1	1.0	2.8	0.7
平成21年度[313]	45.4	8.3	8.6	3.2	2.6	5.4	4.5	3.8	1.9
平成24年度[260]	40.8	10.0	7.7	5.0	2.3	2.7	4.2	2.3	2.7
平成27年度[262]	42.0	8.8	9.2	6.1	3.4	1.9	1.9	2.3	3.1
平成30年度[219]	45.2	8.7	6.8	6.4	3.2	1.8	1.8	1.4	2.7

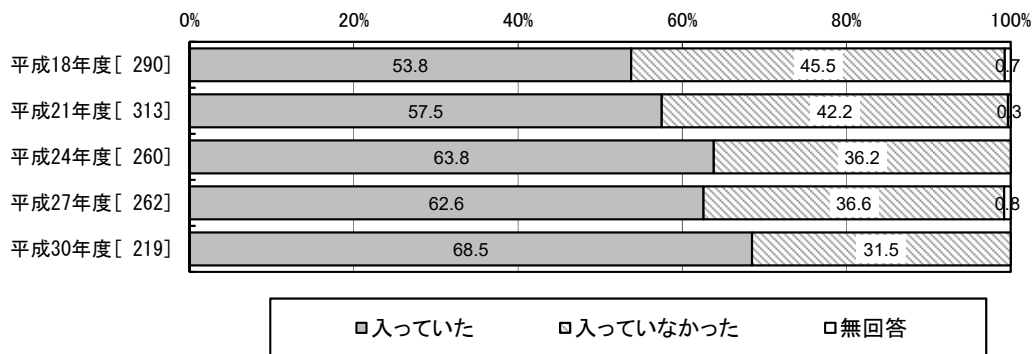
問6. 大学時代のサークル活動への参加状況

今回(平成30年度)の調査回答卒業生で在学中サークル活動等へ参加していた割合は68.5%でこれまでの調査で最も高い割合となっている。

【参考】平成17~27年度までの在学学生学内クラブ・サークル活動への参加割合推移と併せてみると、回答者は学内のクラブ・サークル活動へ参加していた割合が高いと言える。

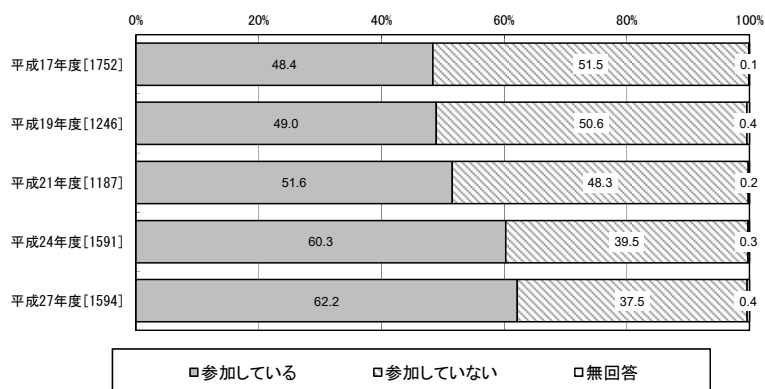
<これまでの調査との比較>

問6. 大学時代になにかクラブ・サークルや団体に入っていましたか<0311>



【参考】平成17~27年度までの在学学生学内クラブ・サークル活動への参加割合推移

問3. あなたは学内のクラブ・サークル活動に参加していますか<0311>

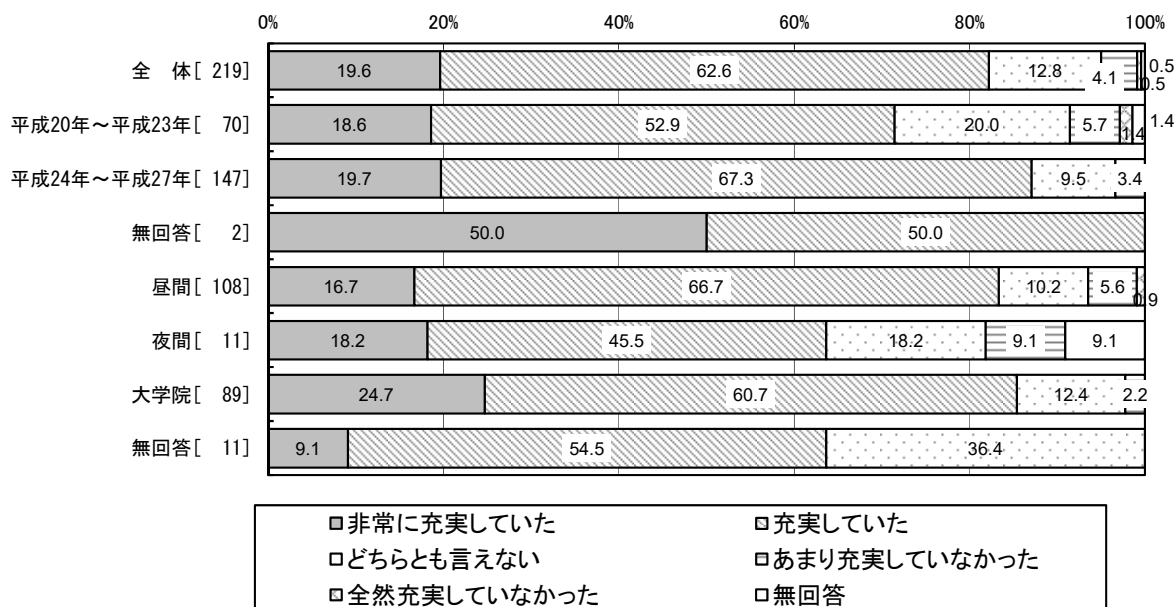


問7. 大学生活の充実度

卒業生の在学中における大学生活の充実度について、「非常に充実していた」(19.6%)、「充実していた」(62.6%)を合わせた肯定回答の割合は全体で 82.2%。平成 20 年～平成 23 年 (71.5%)、平成 24 年～平成 27 年 (87.0%)とかなりの差異がみられる。

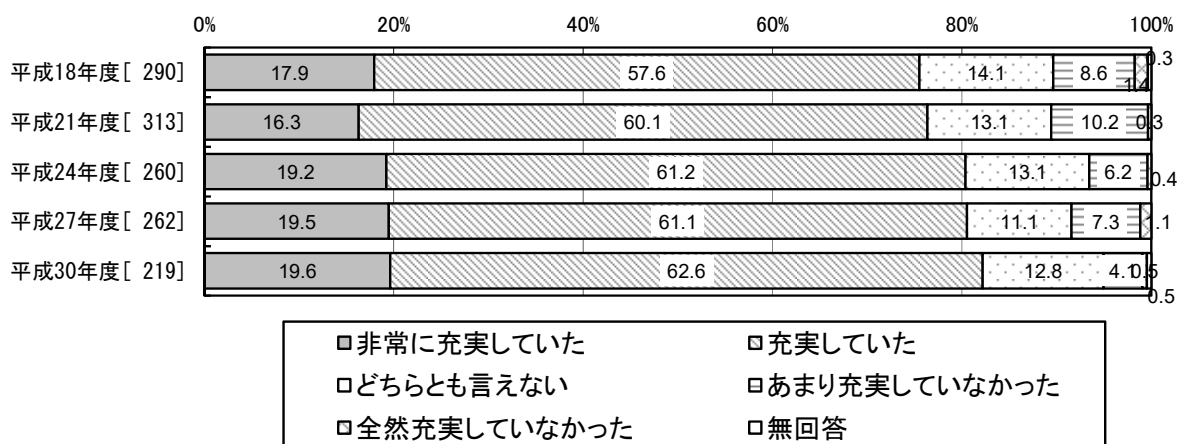
<これまでの調査との比較>でみると、「非常に充実していた」「充実していた」を合わせた肯定回答の割合は、平成 27 年度、平成 24 年度調査とほぼ同等の数値となっている。

問7. あなたの大学時代の生活は、全体としてどの程度充実していましたか<0305>



<これまでの調査との比較>

問7. あなたの大学時代の生活は、全体としてどの程度充実していましたか

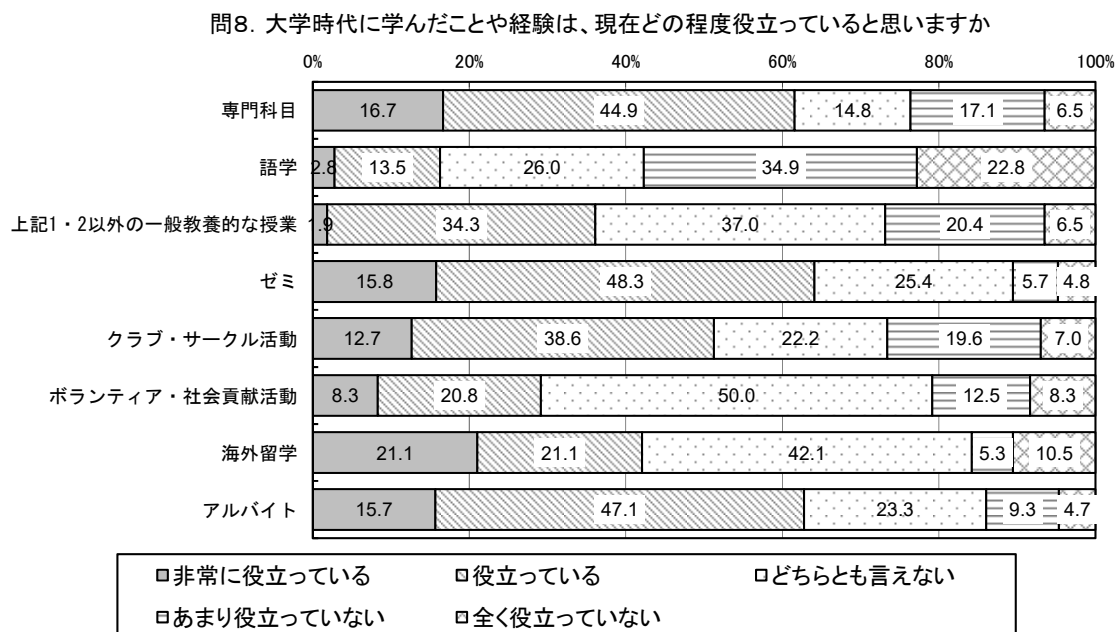


問8. 大学時代に学んだことや経験の現在の生活における貢献度

大学時代に学んだことや経験の現在の生活における貢献度についての設問である。項目によって「該当しない」割合も多いので、「該当しない」「無回答」を除いて集計した結果である。

「非常に役立っている」「役立っている」の肯定回答の割合は、「ゼミ」が64.1%でトップ。次いで「アルバイト」62.8%、「専門科目」61.6%となっている。

下図表の＜回答者数と肯定割合＞からみると、ほぼ全ての回答者が該当する「専門科目」について「非常に役に立っている」「役に立っている」は61.6%(133人)、「ゼミ」については64.1%(134人)となっており、卒業生全体としてみればその貢献度が高いことが把握できる。



＜回答者数と肯定割合＞

問8. 大学時代に学んだことや経験は、現在どの程度役立っていると思いますか（「該当しない」「無回答」を除く）

項目	合計	1. 非常に役立っている					「非常に役立っている」+「役立っている」	
		2. 役立っている	3. どちらとも言えない	4. あまり役立っていない	5. 全く役立っていない	人数	割合	
1. 専門科目	216 (100.0)	36 (16.7)	97 (44.9)	32 (14.8)	37 (17.1)	14 (6.5)	133 61.6%	人
2. 語学	215 (100.0)	6 (2.8)	29 (13.5)	56 (26.0)	75 (34.9)	49 (22.8)	35 16.3%	人
3. 上記1・2以外の一般教養的な授業	216 (100.0)	4 (1.9)	74 (34.3)	80 (37.0)	44 (20.4)	14 (6.5)	78 36.1%	人
4. ゼミ	209 (100.0)	33 (15.8)	101 (48.3)	53 (25.4)	12 (5.7)	10 (4.8)	134 64.1%	人
5. クラブ・サークル活動	158 (100.0)	20 (12.7)	61 (38.6)	35 (22.2)	31 (19.6)	11 (7.0)	81 51.3%	人
6. ボランティア・社会貢献活動	72 (100.0)	6 (8.3)	15 (20.8)	36 (50.0)	9 (12.5)	6 (8.3)	21 29.2%	人
7. 海外留学	19 (100.0)	4 (21.1)	4 (21.1)	8 (42.1)	1 (5.3)	2 (10.5)	8 42.1%	人
8. アルバイト	172 (100.0)	27 (15.7)	81 (47.1)	40 (23.3)	16 (9.3)	8 (4.7)	108 62.8%	人

注：()内はサンプル数を100とした割合

問9. 在学中に身につけておくべき知識、スキル

卒業生が在学中に身につけておくべきだったと考えている知識、スキルに関しては、全体で「専門的知識」が39.7%でトップ。次いで「語学力」38.4%、「各種資格の取得」26.9%となっている。

〈これまでの調査との比較〉でみると、過去4回調査の平均と比較すると、5%以上低くなっているのは「語学力」(-7.8%)、「プレゼンテーション」(-5.2%)の項目である。

問9. 在学中にもっとしておけば良かったと思うこと、身につけておきたかったと思うことがあれば選択肢から選んでください(3つ以内)

	回答者数	合計	1. 専門的知識	2. 語学力	3. 一般的な教養	4. デイバー ト能力	5. プレゼン テーション	6. コミュニ ケーション 能力	
全体	219 (100.0)	518 (236.5)	87 (39.7)	84 (38.4)	30 (13.7)	37 (16.9)	54 (24.7)	47 (21.5)	
卒業年	1. 平成20年～平成23年	70 (100.0)	168 (240.0)	24 (34.3)	26 (37.1)	12 (17.1)	19 (27.1)	17 (24.3)	13 (18.6)
	2. 平成24年～平成27年	147 (100.0)	344 (234.0)	62 (42.2)	57 (38.8)	18 (12.2)	18 (12.2)	37 (25.2)	34 (23.1)
	3. 無回答	2 (100.0)	6 (300.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

	7. OA機器・ ITなどの 使用法	8. 各種資格 の取得	9. クラブ・ サークル 活動	10. ボラン ティア・ 社会貢献 活動	11. 海外留学	12. アルバイ ト	13. その他	14. 無回答	
全体	28 (12.8)	59 (26.9)	18 (8.2)	8 (3.7)	29 (13.2)	15 (6.8)	5 (2.3)	17 (7.8)	
卒業年	1. 平成20年～平成23年	5 (7.1)	18 (25.7)	5 (7.1)	2 (2.9)	11 (15.7)	6 (8.6)	0 (-)	10 (14.3)
	2. 平成24年～平成27年	21 (14.3)	39 (26.5)	13 (8.8)	6 (4.1)	18 (12.2)	9 (6.1)	5 (3.4)	7 (4.8)
	3. 無回答	2 (100.0)	2 (100.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)

〈これまでの調査との比較〉

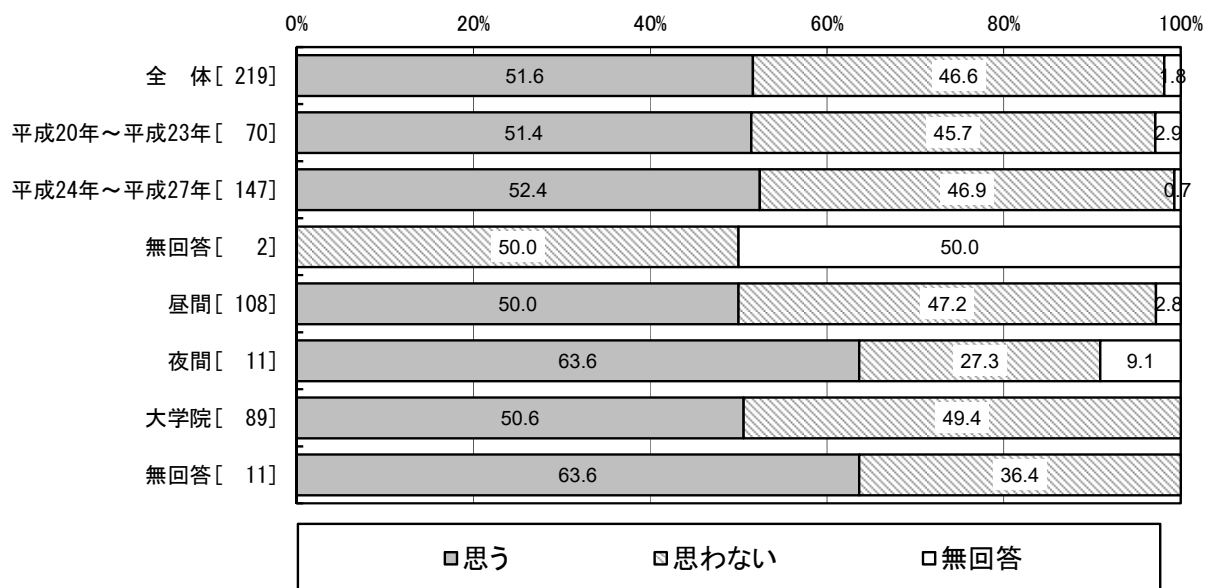
問9. 在学中にもっとしておけば良かったと思うこと、身につけておきたかったと思うことがあれば選択肢から選んでください(3つ以内)

	専門的知識	語学力	一般的な教養	デイバー ト能力	シ プレ ゼン テー ー	シ コ ム ニ ケ ー ー	な ど の 機 器 ・ I T の 使 用 法	各 種 資 格 の 取 得	ル ク ラ ブ ・ サ ー ク ル	社 会 貢 献 活 動	ボ ラ ン テ ィ ア ・ 活 動	海 外 留 学	ア ル バ イ ト	そ の 他	無 回 答
平成18年度[290]	46.2	45.5	15.5	15.5	27.6	21.4	14.8	32.4	9.7	5.9	12.1	6.6	7.2	4.1	
平成21年度[313]	43.5	46.6	13.4	20.1	32.6	23.3	14.4	35.1	9.6	6.1	14.4	4.5	4.2	2.9	
平成24年度[260]	40.4	49.2	15.4	21.5	31.5	24.6	12.3	27.7	8.1	5.8	18.1	6.2	2.7	1.5	
平成27年度[262]	40.1	43.1	12.6	16.4	27.9	24.8	9.9	27.9	6.9	3.8	13.7	6.9	3.8	3.8	
平成30年度[219]	39.7	38.4	13.7	16.9	24.7	21.5	12.8	26.9	8.2	3.7	13.2	6.8	2.3	7.8	
平成18年度～27年度平均	42.5	46.1	14.2	18.4	29.9	23.5	12.9	30.8	8.5	5.4	14.6	6.0	4.5	3.1	
平成18年度～27年度平均と 平成30年度調査の差異	-2.8	-7.8	-0.5	-1.5	-5.2	-2.1	-0.1	-3.8	-0.3	-1.7	-1.3	0.8	-2.2	4.7	

問10. 自分の子供、身内に室蘭工業大学への進学を勧める意思の有無

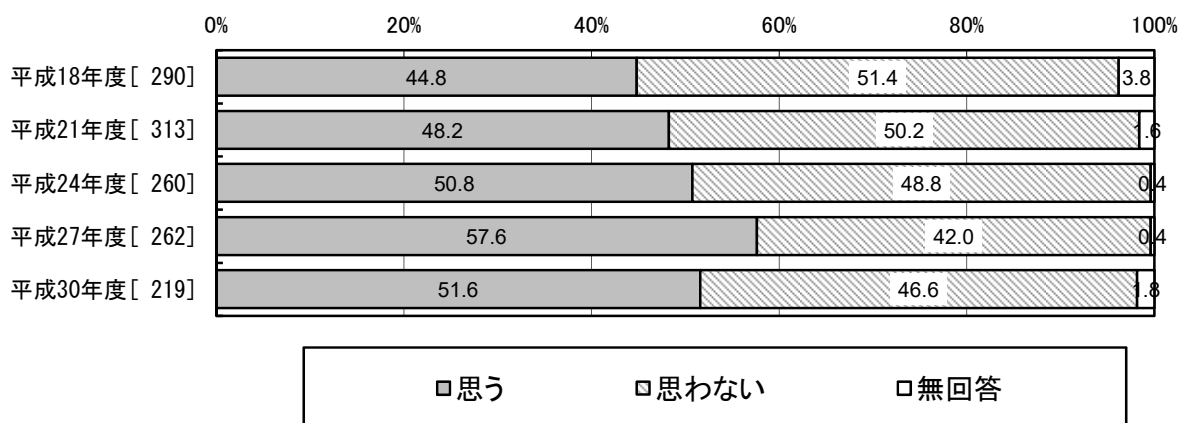
自分の子供、身内に本学への進学を勧めたいと思っている卒業生の割合は全体で 51.6%。平成 20 年～23 年卒業生、平成 24 年～27 年卒業生で差異はほとんどない。<これまでの調査との比較>でみると、前回調査よりは低下しているが、平成 21 年度以降の調査では半数以上の肯定割合で推移している。

問10. 自分の子供、身内に室蘭工業大学への進学を勧めたいと思いますか<0803>



<これまでの調査との比較>

問10. 自分の子供、身内に室蘭工業大学への進学を勧めたいと思いますか<0803>



問11. 12. 室蘭工業大学進学を勧める理由・勧めない理由

自分の子供、身内に本学進学を勧める理由としては「国立大学である」が84.1%でトップ。その他「就職に有利」46.9%、「自分の母校だから」23.0%と続いている。

逆に、進学を勧めない理由の10%以上の項目としては、「本人が決めることだから」(73.5%)、「自宅から通えない」(17.6%)、「偏差値が低い」(12.7%)が挙げられている。

<室蘭工業大学進学を勧める理由>

問11. [問10で1と答えた方]その理由(3つ以内)

	回答者数	合計	1. 教育ス タッフが 充実して いる	2. 国立大学 である	3. キャンパ スの雰囲 気がよい	4. 教育施設 が充実し ている	5. 有能な人 材を送り 出してい る	6. 就職に有 利	
全 体	113 (100.0)	255 (225.7)	10 (8.8)	95 (84.1)	23 (20.4)	16 (14.2)	8 (7.1)	53 (46.9)	
卒 業 年	1. 平成20年～平成23年	36 (100.0)	81 (225.0)	2 (5.6)	28 (77.8)	11 (30.6)	5 (13.9)	2 (5.6)	19 (52.8)
	2. 平成24年～平成27年	77 (100.0)	174 (226.0)	8 (10.4)	67 (87.0)	12 (15.6)	11 (14.3)	6 (7.8)	34 (44.2)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒 業 学 科 ・ 専 攻	1. 昼間	54 (100.0)	122 (225.9)	4 (7.4)	46 (85.2)	13 (24.1)	7 (13.0)	4 (7.4)	25 (46.3)
	2. 夜間	7 (100.0)	16 (228.6)	0 (-)	6 (85.7)	3 (42.9)	2 (28.6)	0 (-)	2 (28.6)
	3. 大学院	45 (100.0)	104 (231.1)	6 (13.3)	37 (82.2)	6 (13.3)	7 (15.6)	4 (8.9)	23 (51.1)
	4. 無回答	7 (100.0)	13 (185.7)	0 (-)	6 (85.7)	1 (14.3)	0 (-)	0 (-)	3 (42.9)

	7. スポー ツ・文化 活動が活 発	8. 偏差値が 高い	9. 高校の先 生・塾が 勧める	10. 自分の母 校だから	11. 自宅から 通える	12. 歴史や伝 統がある	13. その他	14. 無回答	
全 体	1 (0.9)	0 (-)	0 (-)	26 (23.0)	4 (3.5)	7 (6.2)	11 (9.7)	1 (0.9)	
卒 業 年	1. 平成20年～平成23年	1 (2.8)	0 (-)	0 (-)	8 (22.2)	0 (-)	4 (11.1)	1 (2.8)	
	2. 平成24年～平成27年	0 (-)	0 (-)	0 (-)	18 (23.4)	4 (5.2)	7 (9.1)	0 (-)	
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	
卒 業 学 科 ・ 専 攻	1. 昼間	1 (1.9)	0 (-)	0 (-)	11 (20.4)	1 (1.9)	4 (7.4)	5 (9.3)	1 (1.9)
	2. 夜間	0 (-)	0 (-)	0 (-)	2 (28.6)	0 (-)	0 (-)	1 (14.3)	0 (-)
	3. 大学院	0 (-)	0 (-)	0 (-)	12 (26.7)	3 (6.7)	2 (4.4)	4 (8.9)	0 (-)
	4. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (14.3)	0 (-)	1 (14.3)	1 (14.3)	0 (-)

注:()内はサンプル数を100とした割合

<室蘭工業大学進学を勧めない理由>

問12. [問10で2と答えた方]その理由(3つ以内)

	回答者数	合計	1. 教育ス タッフが 充実して いない	2. 国立大学 である	3. キャンパ スの雰 囲気にな じめない	4. 教育施設 が充実し ていない	5. 有能な卒 業生が少 ない	6. 就職に不 利	7. スポー ツ・文化 活動が活 発でない	
全 体	102 (100.0)	171 (167.6)	9 (8.8)	0 (-)	2 (2.0)	8 (7.8)	9 (8.8)	5 (4.9)	4 (3.9)	
卒業年	1. 平成20年～平成23年	32 (100.0)	52 (162.5)	1 (3.1)	0 (-)	1 (3.1)	2 (6.3)	5 (15.6)	1 (3.1)	1 (3.1)
	2. 平成24年～平成27年	69 (100.0)	117 (169.6)	8 (11.6)	0 (-)	1 (1.4)	6 (8.7)	4 (5.8)	4 (5.8)	3 (4.3)
	3. 無回答	1 (100.0)	2 (200.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
卒業学 科・専 攻	1. 昼間	51 (100.0)	81 (158.8)	2 (3.9)	0 (-)	1 (2.0)	2 (3.9)	6 (11.8)	3 (5.9)	2 (3.9)
	2. 夜間	3 (100.0)	6 (200.0)	1 (33.3)	0 (-)	1 (33.3)	0 (-)	1 (33.3)	0 (-)	0 (-)
	3. 大学院	44 (100.0)	77 (175.0)	6 (13.6)	0 (-)	0 (-)	6 (13.6)	2 (4.5)	1 (2.3)	1 (2.3)
	4. 無回答	4 (100.0)	7 (175.0)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (25.0)	1 (25.0)

	8. 偏差値が 低い	9. 高校の先 生・塾が 勧めない	10. 自分の母 校だから	11. 自宅から 通えない	12. 歴史や伝 統を感じ ない	13. 本人が決 めること だから	14. その他	15. 無回答	
全 体	13 (12.7)	0 (-)	3 (2.9)	18 (17.6)	1 (1.0)	75 (73.5)	23 (22.5)	1 (1.0)	
卒業年	1. 平成20年～平成23年	2 (6.3)	0 (-)	1 (3.1)	5 (15.6)	0 (-)	25 (78.1)	8 (25.0)	0 (-)
	2. 平成24年～平成27年	11 (15.9)	0 (-)	2 (2.9)	13 (18.8)	1 (1.4)	49 (71.0)	14 (20.3)	1 (1.4)
	3. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (100.0)	1 (100.0)	0 (-)
卒業学 科・専 攻	1. 昼間	5 (9.8)	0 (-)	2 (3.9)	9 (17.6)	0 (-)	40 (78.4)	9 (17.6)	0 (-)
	2. 夜間	1 (33.3)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (-)
	3. 大学院	7 (15.9)	0 (-)	1 (2.3)	8 (18.2)	1 (2.3)	31 (70.5)	12 (27.3)	1 (2.3)
	4. 無回答	0 (-)	0 (-)	0 (-)	1 (25.0)	0 (-)	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (-)

注:()内は割合(%)を100とした割合

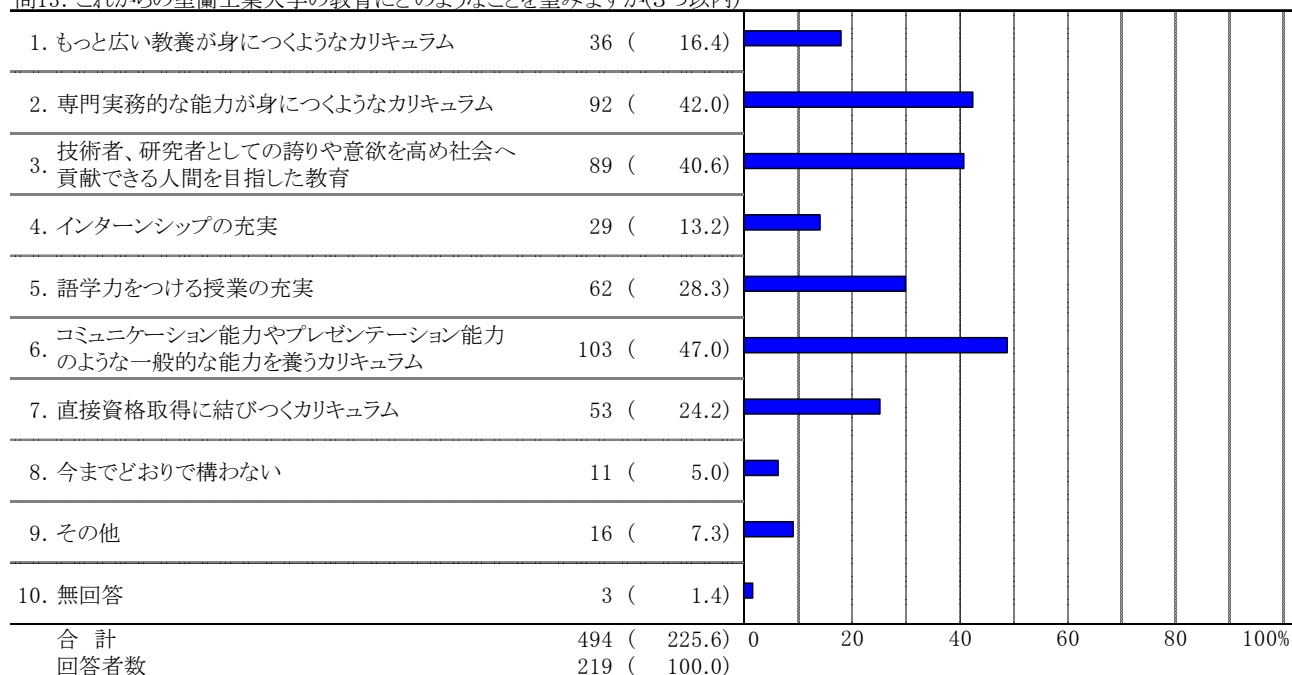
問13. これからの室蘭工業大学の教育に望む事項

卒業生が望む本学の教育内容・方向性についての設問である。

5割以上の項目はなく、「コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力のような一般的な能力を養うカリキュラム」47.0%、次いで「専門実務的な能力が身につくようなカリキュラム」42.0%、「技術者、研究者としての誇りや意欲を高め社会へ貢献できる人間を目指した教育」40.6%となっている。

<これまでの調査との比較>でみると、一貫して増加、減少している項目は見あたらない。

問13. これからの室蘭工業大学の教育にどのようなことを望みますか(3つ以内)



<これまでの調査との比較>

問13. これからの室蘭工業大学の教育にどのようなことを望みますか(3つ以内)

	もっと広い教養が身につくようなカリキュラム	専門実務的な能力が身につくようなカリキュラム	技術者、研究者としての誇りや意欲を高め社会へ貢献できる人間を目指す教育	インターンシップの充実	語学力をつける授業の充実	コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力のような一般的な能力を養うカリキュラム	直接資格取得に結びつくカリキュラム	今までどおりで構わない	その他	無回答
平成18年度[290]	22.1	47.2	54.8	14.1	29.7	46.6	32.8	3.1	5.9	1.0
平成21年度[313]	21.7	50.8	46.6	18.8	28.1	47.9	36.1	4.2	5.4	1.9
平成24年度[260]	15.4	45.8	42.3	16.5	33.8	46.5	26.9	2.3	3.8	0.4
平成27年度[262]	19.1	42.4	46.2	17.6	30.9	40.5	26.3	3.8	6.5	—
平成30年度[219]	16.4	42.0	40.6	13.2	28.3	47.0	24.2	5.0	7.3	1.4

問14. 室蘭工業大学出身で「良かった」「良くなかった」と思うこと

室蘭工業大学出身で「良かったと思う点」、「良くなかったと思う点」の自由記述については回答者 219 人中 118 人から具体的な記述をいただいた。

「良かったと思う点」で記載が多いのは、「入社した会社に先輩がいて心強かった」「友人に恵まれた。深い交友関係を築けた」、「専門的な知識を身に着け、業務に活かすことができた」、「就職に有利」、「国立大学である」等である。

逆に良くなかった点としては、「(北海道以外では)知名度が低い」、「他校(ほかの大学・専門学校)や企業との接点が少なかった」、「語学を身につける授業が充実していない」、「交通が不便、周囲になにもない」等が挙げられている。

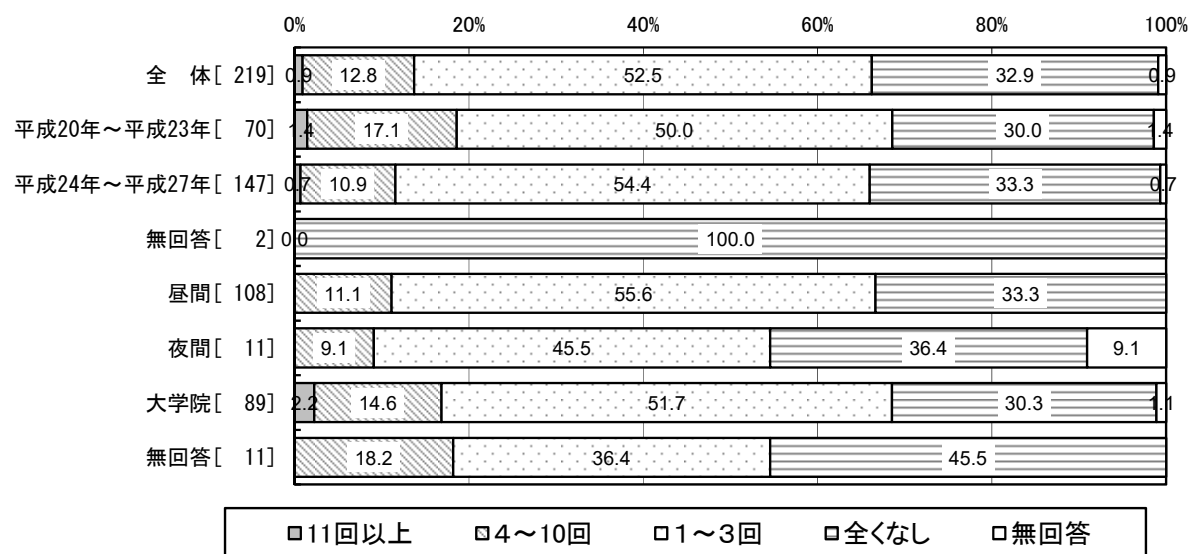
自由記述については巻末に全文を掲載したので参照いただきたい。

問15. 卒業後のキャンパス訪問状況

卒業後に1回以上キャンパスを訪れたことのある卒業生は、全体で66.2%。

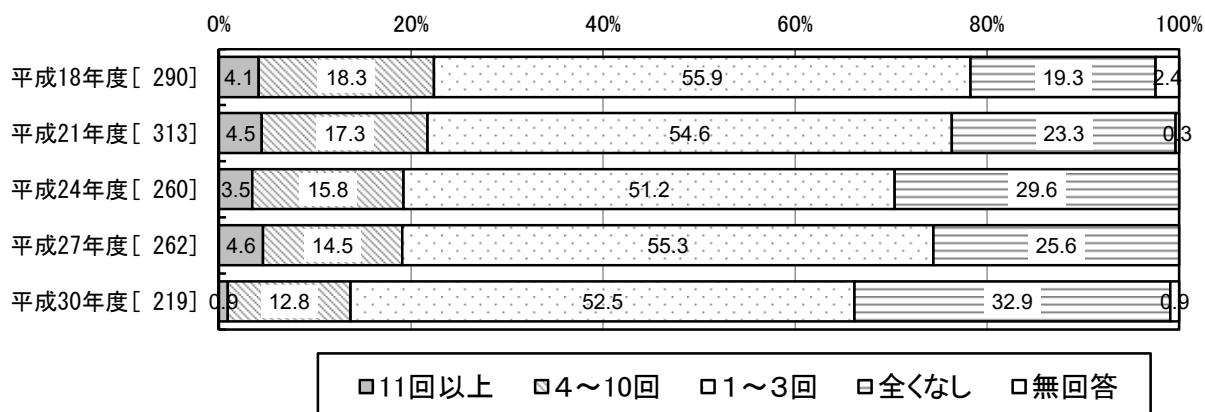
<これまでの調査との比較>でみるとこれまでの調査と比較して、卒業後全くキャンパスを訪れたことのない卒業生の割合が若干増加していることがわかる。

問15. 卒業後どれくらいキャンパスを訪れましたか<0831>



<これまでの調査との比較>

問15. 卒業後どれくらいキャンパスを訪れましたか<0831>



問16. 卒業後にキャンパスを訪問した目的

卒業後にキャンパスを訪問した目的としては、「ゼミの先生や仲間に会いに」が40.6%で最も多い。次いで「後輩のクラブ活動の指導で」10.0%、「大学祭・同窓会などで」5.5%の順になっている。その他では、リクルート活動（在校生への会社説明、勧誘）が10数件挙がっている。

問16. 卒業後、キャンパスを訪れた主な目的を選択肢から選んでください（3つ以内）

	で大学祭・同窓会など	指導で先輩のクラブ活動の	の図書館など大学施設	ゼミの先生や仲間に	聴講や研究で	卒業・成績証明書をもらいに	家族に母校を見せるため	公開講座、各種講演会を聞くために	その他	無回答
全体[219]	5.5	10.0	2.7	40.6	1.4	2.7	3.2	1.4	21.0	34.2
平成20年～平成23年[70]	11.4	12.9	5.7	35.7	2.9	2.9	7.1	2.9	20.0	31.4
平成24年～平成27年[147]	2.7	8.8	1.4	43.5	0.7	2.7	1.4	0.7	21.8	34.7
無回答[2]	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0
昼間[108]	6.5	10.2	3.7	37.0	—	1.9	3.7	0.9	21.3	33.3
夜間[11]	9.1	—	—	45.5	—	9.1	9.1	—	9.1	45.5
大学院[89]	2.2	10.1	2.2	46.1	3.4	3.4	2.2	2.2	23.6	32.6
無回答[11]	18.2	18.2	—	27.3	—	—	—	—	9.1	45.5

問17. 同窓との継続的なネットワークの有無とその状況

同窓と何らかの繋がりを持っている卒業生は、全体の72.2%。

具体的には「先輩・同期・後輩とのプライベートな繋がりがある」が59.4%で最も多い。次いで「クラブ・サークル・ゼミの集まりに参加している」16.0%、「先生との繋がりがある」12.3%となっている。

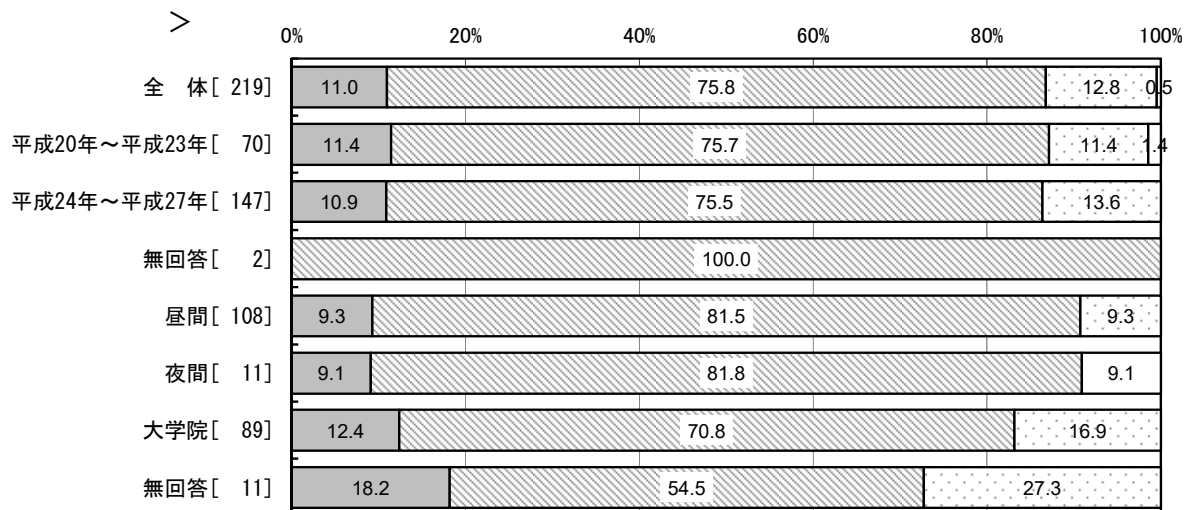
問17. 卒業後、同窓との繋がりをどのように持っておられますか（3つ以内）＜0851＞

	同窓会・地域支部に参加	企業内・職域などでの同窓集まり	ミクラブ・サークル・ゼミ	先生との繋がりがある	先輩・同期・後輩との繋がりがある	先生との繋がりがある	行事を通して音楽などの	特別なものは無い	無回答
全体[219]	3.2	11.0	16.0	59.4	12.3	1.8	26.9	0.9	
平成20年～平成23年[70]	2.9	8.6	21.4	52.9	12.9	1.4	30.0	1.4	
平成24年～平成27年[147]	3.4	12.2	13.6	62.6	12.2	2.0	25.2	0.7	
無回答[2]	—	—	—	50.0	—	—	50.0	—	
昼間[108]	1.9	7.4	14.8	56.5	4.6	1.9	32.4	—	
夜間[11]	—	9.1	—	36.4	—	—	45.5	9.1	
大学院[89]	5.6	13.5	18.0	66.3	23.6	2.2	19.1	1.1	
無回答[11]	—	27.3	27.3	54.5	9.1	—	18.2	—	

問18. 大学及び同窓会、記念事業等に対する寄付や献金の有無と今後の意向

本学の同窓会、記念事業等に寄付や献金をしたことがある卒業生の割合は、全体の11.0%。一方、「したことはないがしたい意思はある」卒業生も12.8%でほぼ同数存在する。

問18. 室蘭工業大学や同窓会、記念事業等に寄付や献金をしたことがありますか<0811

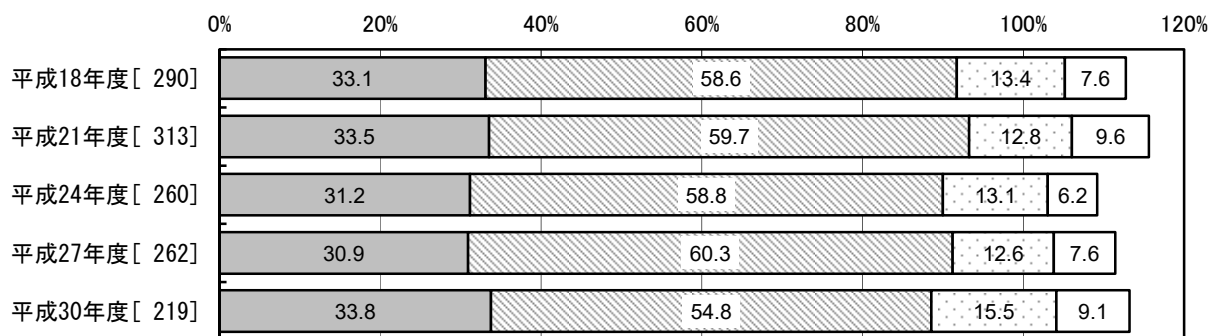


したことがある したことがない したことはないがしたい意思はある 無回答

問19. 大学の情報に触れる媒体

本学の情報に触れる主な媒体としては、「室蘭工業大学のホームページ」が54.8%と最も多い。これまでの調査と比較しても大きな変化は見られない。

問19. 室蘭工業大学の情報に触れる主な媒体は何ですか(複数回答)



マスコミ 室蘭工業大学のホームページ その他 無回答

問20. ここ2～3年で目にした大学に関するニュース・話題（自由記述分類）

ここ2～3年で目にした大学に関するニュース・話題に関しては、50件の具体的記述があった。ただし、記載内容は曖昧な表現、事象もあるので報告書には掲載していない。

参考までに大まかな分類のもとに記載件数を以下に記載した。

(件)

パワハラ・セクハラによる教員の処分	17
工学部の学部再編	17
共同研究とその受賞	3
超音速無人機の研究	3
その他	20

問21. 現在の勤務先の業種と会社内での職種、役職

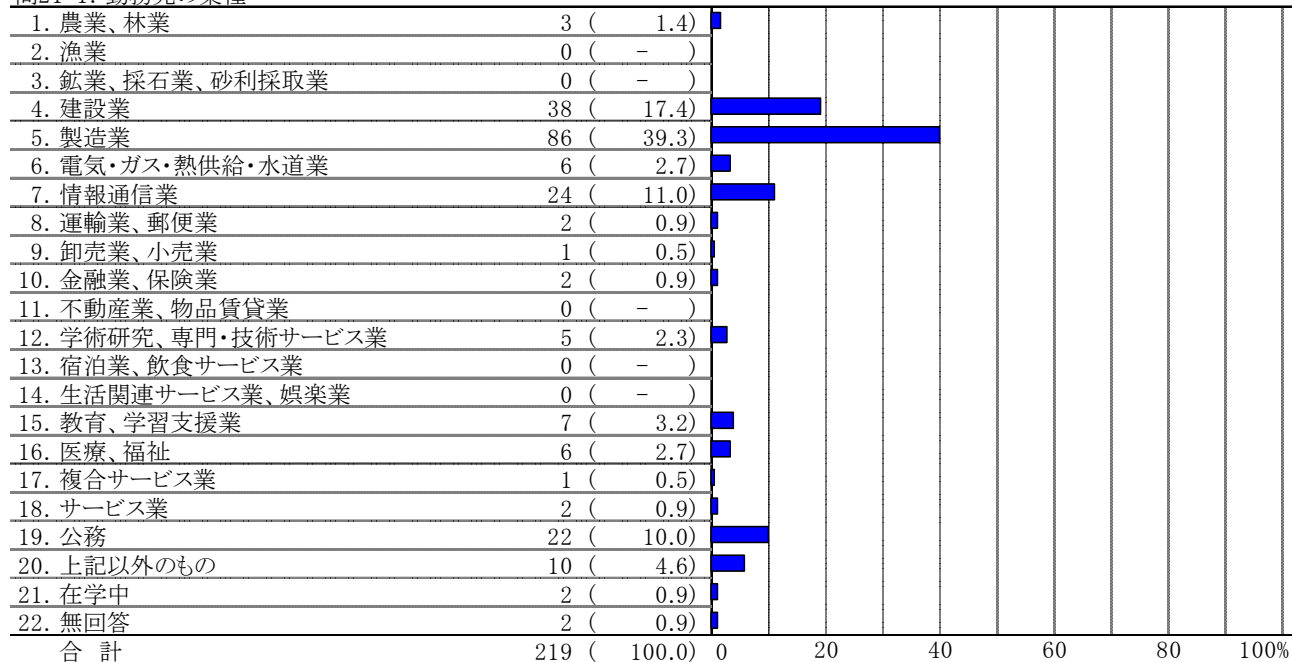
卒業生の勤務先の業種としては、「製造業」39.3%がトップ。次いで「建設業」17.4%、「情報通信業」11.0%、「公務」10.0%となっている。

社内での職種としては、「専門的・技術的職業従事者」が65.4%と圧倒的に多い。

比較的若年の卒業生がアンケート対象のため、現在の役職については一般職の割合が高くなっていると思われる。

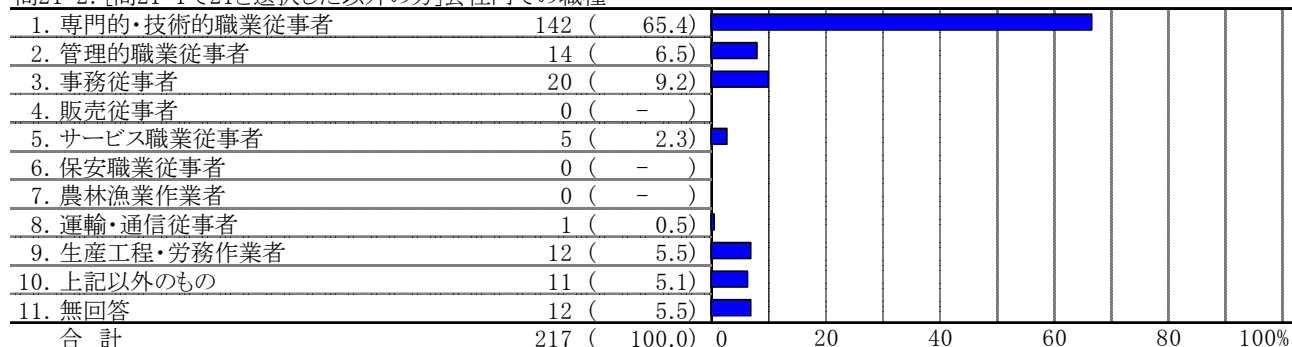
問21. あなたの現在の勤務先(自営を含む)の業種と会社内での職種、役職

問21-1. 勤務先の業種



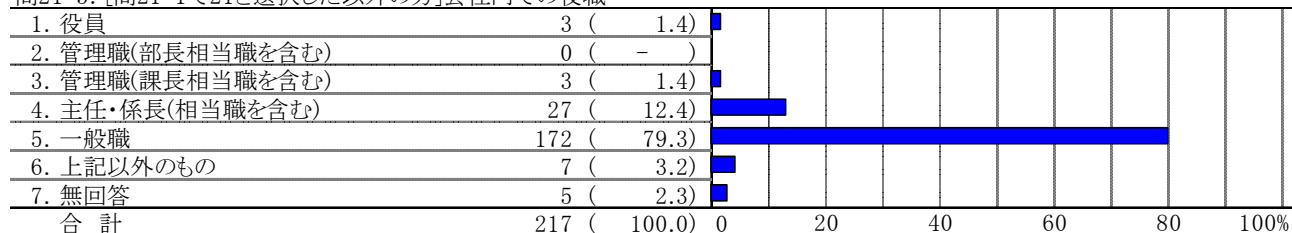
問21. あなたの現在の勤務先(自営を含む)の業種と会社内での職種、役職

問21-2. [問21-1で21と選択した以外の方]会社内での職種



問21. あなたの現在の勤務先(自営を含む)の業種と会社内での職種、役職

問21-3. [問21-1で21と選択した以外の方]会社内での役職

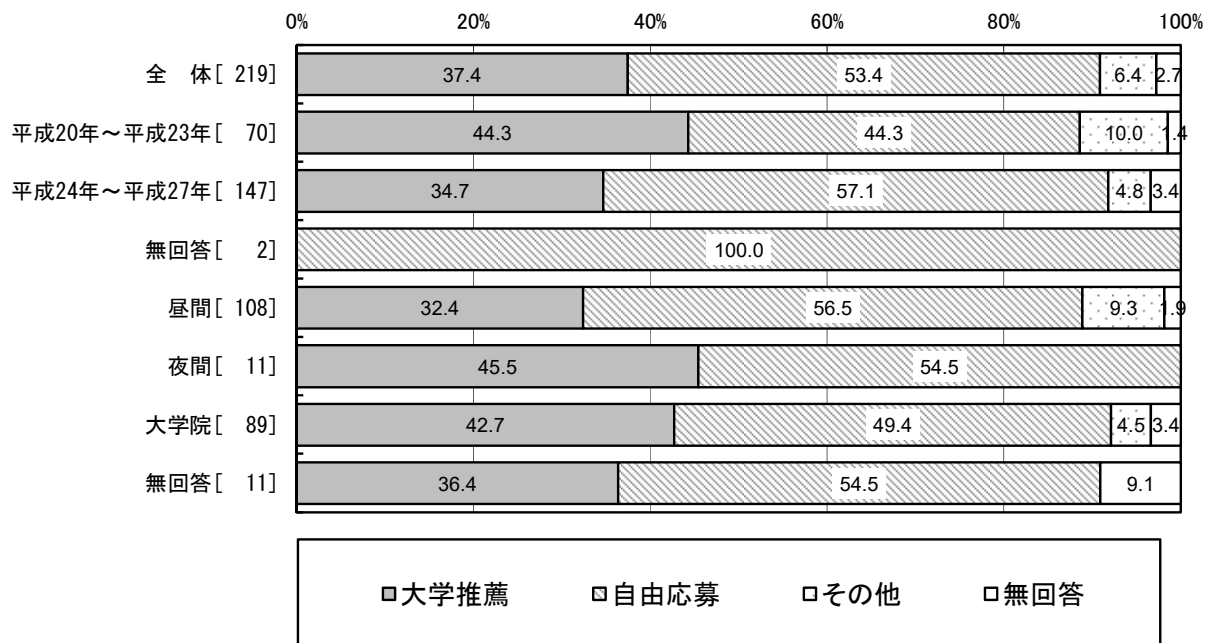


問22-1. 就職の形式(大学推薦か自由応募か)

就職した際の形式は、「大学推薦」が全体の 37.4%。今回調査における卒業年別では「平成20年～平成23年」において、その割合が 44.3%に対して、「平成24年～平成27年」は 34.7%と 9.6%の差異となっている。

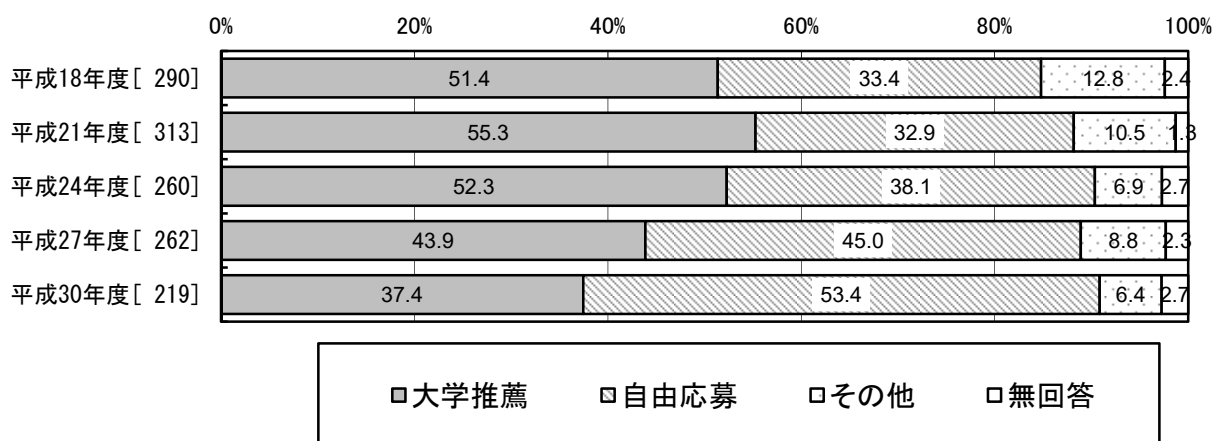
<これまでの調査との比較>でも「大学推薦」の割合が減少傾向になっているようにも見受けられる。

問22. あなたが卒業時に就職した際の形式や満足度
問22-1. 就職は大学推薦でしたか自由応募でしたか



<これまでの調査との比較>

問22-1. 就職は大学推薦でしたか自由応募でしたか



問22-2. 就職時の大学サポートの満足度

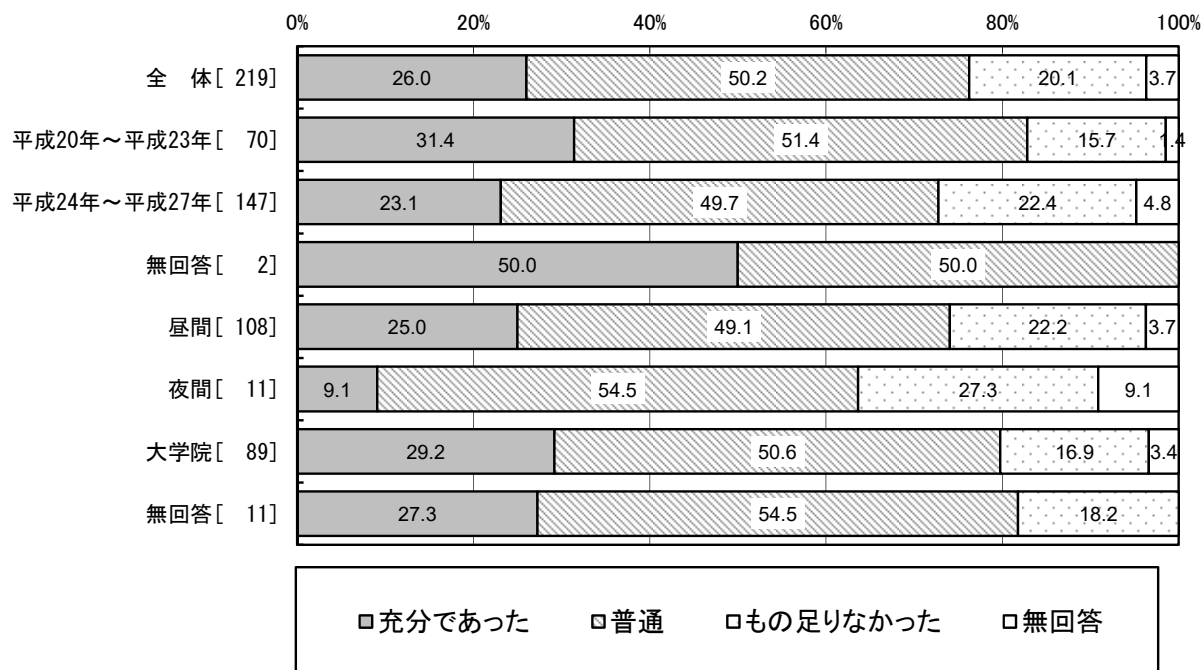
就職時の大学側のサポートについて、「充分であった」「普通」の合計は全体で76.2%。

平成20～23年卒業生と平成24～27年卒業生の比較で見ると、平成24～27年卒業生において「充分であった」の割合が8.3%減少している。

一方、全体として〈これまでの調査との比較〉で見ると、就職時の大学側のサポートについての満足度は、「普通」以上で概ね70%～78%の範囲で推移している。

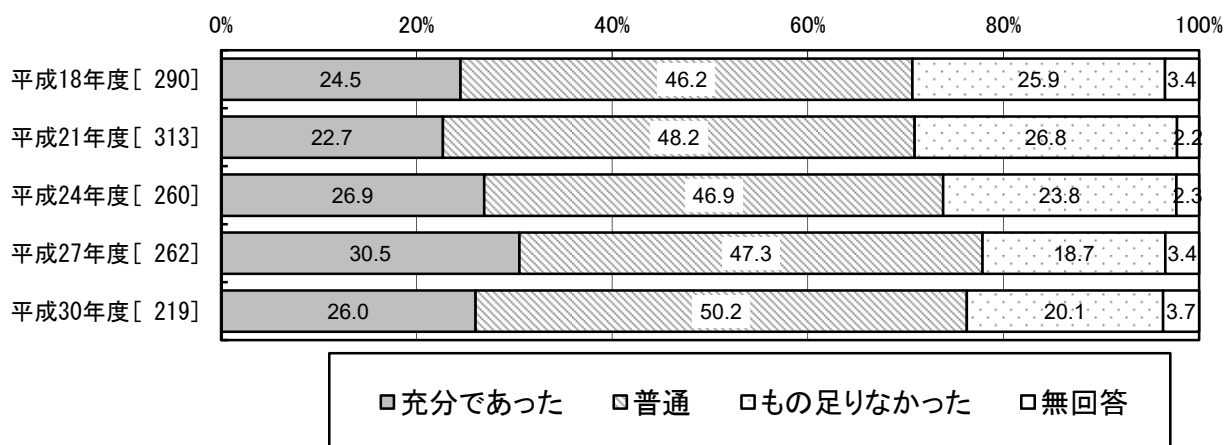
問22. あなたが卒業時に就職した際の形式や満足度

問22-2. 就職時における大学側のサポートは充分でしたか<0426>



〈これまでの調査との比較〉

問22-2. 就職時における大学側のサポートは充分でしたか<0426>



問22-3. 卒業時の就職先に関する満足度

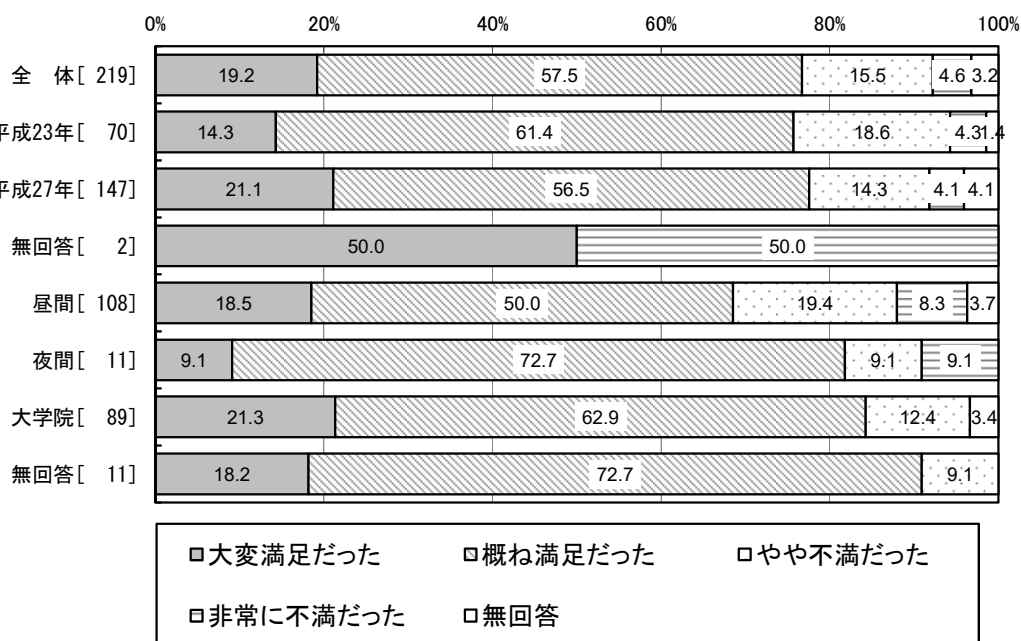
卒業時の就職先に関しての満足度については、「大変満足だった」「概ね満足だった」を合わせて76.7%。

平成20～23年卒業生と平成24～27年卒業生の比較で見ると、平成24～27年卒業生の方が若干満足度が高くなっている。

〈これまでの調査との比較〉でみると、「大変満足だった」が平成27年調査では26.0%、今回調査では19.2%となっている。

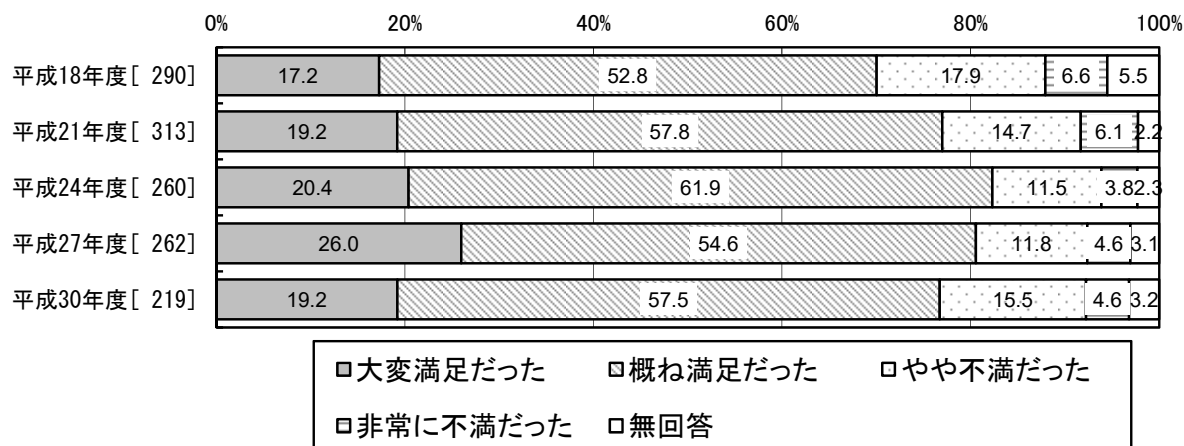
鳥瞰すると、「大変満足だった」「概ね満足だった」割合は、概ね70%～82%の範囲で推移している。

問22. あなたが卒業時に就職した際の形式や満足度
問22-3. 卒業時の就職先に関する満足度はどうでしたか<0402>



〈これまでの調査との比較〉

問22-3. 卒業時の就職先に関する満足度はどうでしたか<0402>



問23. 就職時に必要だったと思うサポートの内容

就職時の大学側のサポートが「もの足りなかった」と回答した卒業生が考えるサポートの種類や項目を3つ以内の選択式で聞いた集計である。

「もっと多くの企業、団体等の紹介、情報提供をしてほしかった」が43.2%で最も多い。その他、20%以上の割合を占めた項目としては「面接試験、適性検査、一般常識などの受け方の指導をもっとしてほしかった」29.5%、「就職後にどのような仕事に就けるかをもっと知りたかった」「就職、進学を問わず、進路について自己分析などの細かな相談に乗ってほしかった」ともに22.7%、「履歴書、エントリーシートなど応募書類の書き方をもっと知りたかった」20.5%となっている。

問23. [問22-2で3と答えた方] どのようなサポートがあればよかったとお考えでしょうか(3つ以内)



<これまでの調査との比較>

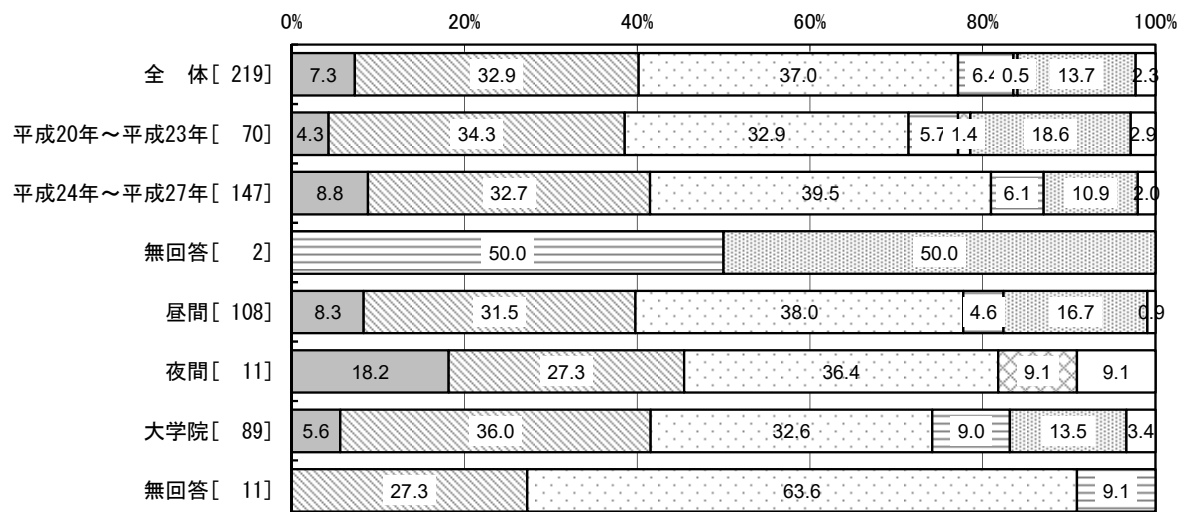
	もっと多くの企業、団体等の紹介、情報提供をしてほしかった	業界、企業等の業績動向、各社戦略の差異等についてもっと知りたかった	企業等の持つ文化、風土についてもっと知りたかった	就職後にどのような仕事に就けるかをもっと知りたかった	実際のそれぞれの企業等の入社試験の具体的な内容についてもっと知りたかった	履歴書、エントリーシートなど応募書類の書き方をもっと知りたかった	面接試験、適性検査、一般常識などの受け方の指導をもっとしてほしかった	資格試験、公務員試験の対策講座を開いてほしかった	就職、進学を問わず、進路について自己分析などの細かな相談に乗ってほしかった	その他	無回答
平成18年度 [75]	38.7	29.3	12.0	25.3	14.7	10.7	22.7	21.3	34.7	13.3	10.7
平成21年度 [84]	36.9	27.4	9.5	26.2	11.9	13.1	20.2	25.0	21.4	19.0	14.3
平成24年度 [62]	37.1	33.9	14.5	29.0	11.3	14.5	19.4	24.2	21.0	11.3	12.9
平成27年度 [49]	46.9	34.7	10.2	24.5	10.2	20.4	26.5	10.2	18.4	8.2	10.2
平成30年度 [44]	43.2	13.6	6.8	22.7	11.4	20.5	29.5	18.2	22.7	11.4	6.8

問24. 勤務先での室蘭工業大学及び卒業生の評価

勤務先における本学と卒業生に対する評価について、「非常に高い評価を受けていると感じる」「やや高い評価を受けていると感じる」を合わせた肯定回答の割合は、全体で40.2%。

<これまでの調査との比較>では、全体として大きな変化は把握できない。

問24. 勤務先での室蘭工業大学または卒業生の評価をどう感じていますか<0406>



- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 非常に高い評価を受けていると感じる | <input type="checkbox"/> やや高い評価を受けていると感じる |
| <input type="checkbox"/> 普通である | <input type="checkbox"/> やや低い評価を受けていると感じる |
| <input type="checkbox"/> 非常に低い評価を受けていると感じる | <input type="checkbox"/> わからない |
| <input type="checkbox"/> 無回答 | |

<これまでの調査との比較>

	非常に高い評価を受けていると感じる	やや高い評価を受けていると感じる	普通である	やや低い評価を受けていると感じる	非常に低い評価を受けていると感じる	わからない	無回答	普通以上
平成18年度 [290]	11.4	29.3	32.1	5.2	1.7	15.2	5.2	72.8
平成21年度 [313]	6.1	29.7	37.7	5.1	2.2	17.6	1.6	73.5
平成24年度 [260]	6.9	30.8	42.3	5.8	0.4	12.7	1.2	80.0
平成27年度 [262]	9.9	29.8	36.3	3.8	0.4	17.2	2.7	76.0
平成30年度 [219]	7.3	32.9	37.0	6.4	0.5	13.7	2.3	77.2

問25. 転職の経験の有無と回数

転職経験のある卒業生の割合は、全体で20.1%。平成20～23年卒業生で30.0%、平成24～27年卒業生では15.0%となっている。

<これまでの調査との比較>でみると、平成18年度の調査を除けば、転職経験のある卒業生の割合は、概ね2割前後となっている。

問25. あなたはこれまでに何回転職の経験がありますか

	1回	2回	3回以上	転職の経験はない	就職の経験はない	無回答	1回以上の転職経験者
全体[219]	16.0	3.2	0.9	74.9	4.6	0.5	20.1
平成20年～平成23年[70]	27.1	2.9	—	67.1	2.9	—	30.0
平成24年～平成27年[147]	10.2	3.4	1.4	78.9	5.4	0.7	15.0
無回答[2]	50.0	—	—	50.0	—	—	50.0
昼間[108]	23.1	4.6	0.9	68.5	2.8	—	28.7
夜間[11]	9.1	—	—	90.9	—	—	9.1
大学院[89]	7.9	—	1.1	82.0	7.9	1.1	9.0
無回答[11]	18.2	18.2	—	63.6	—	—	36.4

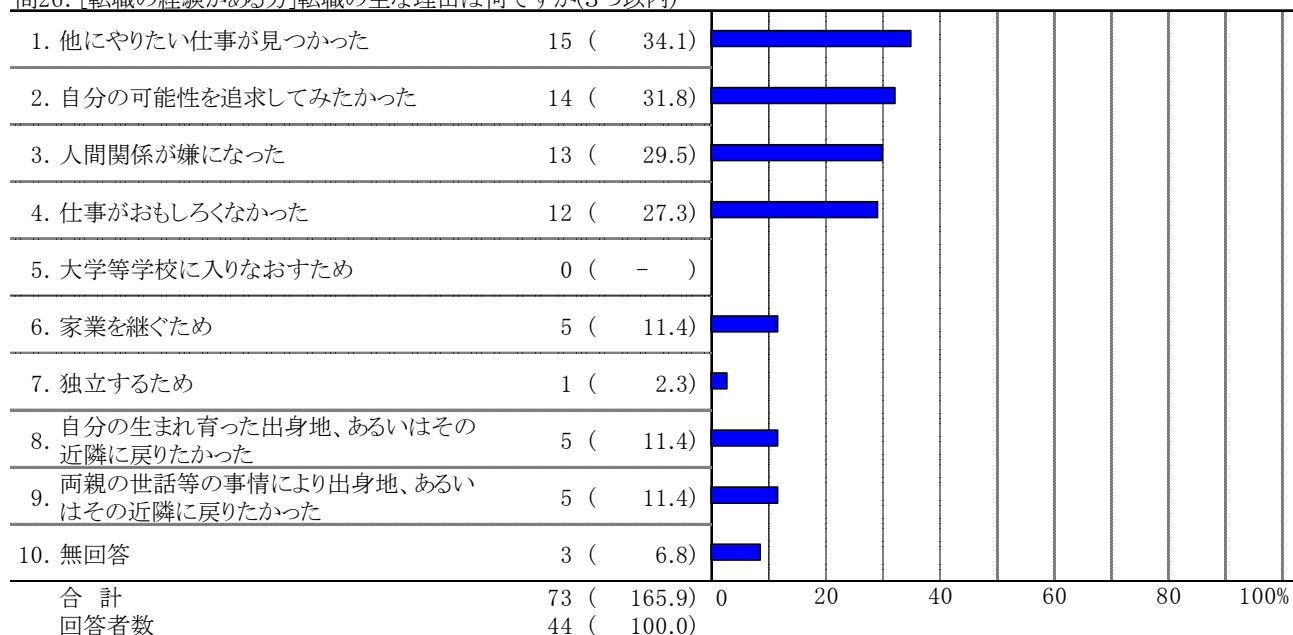
<これまでの調査との比較>

	1回	2回	3回以上	転職の経験はない	就職の経験はない	無回答	1回以上の転職経験者
平成18年度[290]	21.7	4.8	2.1	64.5	3.1	3.8	28.6
平成21年度[313]	16.6	2.6	2.6	74.4	3.2	0.6	21.7
平成24年度[260]	15.8	1.9	2.7	75.4	3.1	1.2	20.4
平成27年度[262]	14.5	3.4	0.8	74.8	3.8	2.7	18.7
平成30年度[219]	16.0	3.2	0.9	74.9	4.6	0.5	20.1

問26. 転職の主な理由

転職の主な理由として最も多いのは「他にやりたい仕事が見つかった」34.1%、次いで「自分の可能性を追求してみたかった」31.8%となっている。

問26. [転職の経験がある方]転職の主な理由は何ですか(3つ以内)



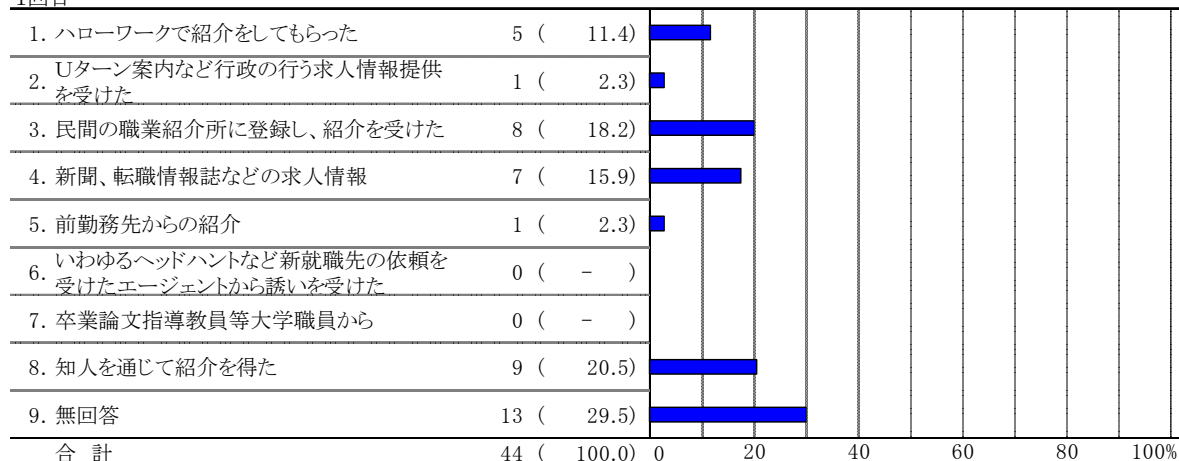
問27. 新たな就職先を探した手段

新たな就職先を探す手段としては、1 回目は「民間の職業紹介所に登録し、紹介を受けた」が 18.2%で最も多く、次いで「新聞、転職情報誌などの求人情報」15.9%、「ハローワークで紹介してもらった」11.4%となっている。

2 回目については母数が少ないので参考程度としていただきたい。

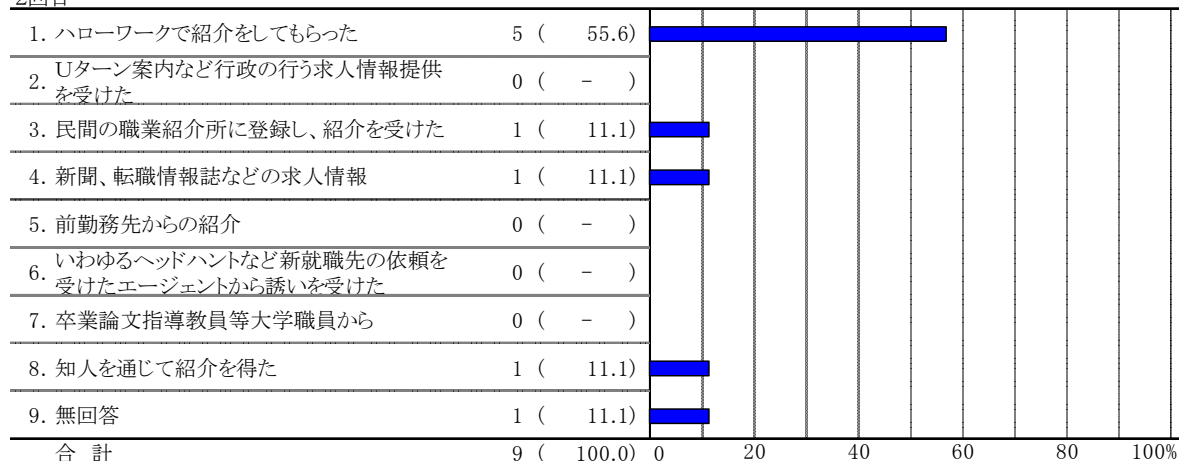
問27. [転職の経験のある方]新たな就職先はどのようにして見つけれられましたか

1回目



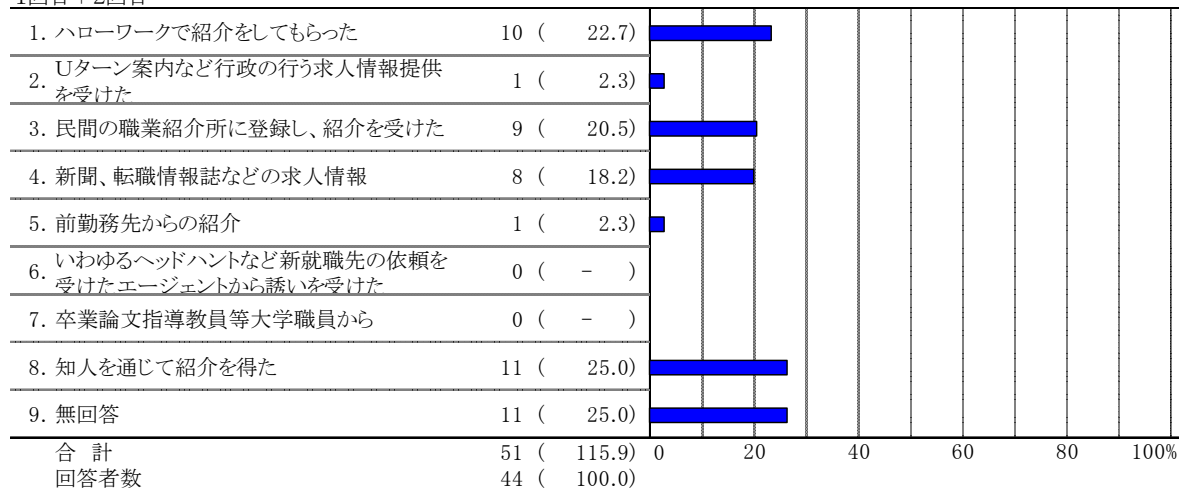
問27. [転職の経験のある方]新たな就職先はどのようにして見つけれられましたか

2回目



問27. [転職の経験のある方]新たな就職先はどのようにして見つけれられましたか

1回目+2回目



問28. 本学が転職支援サービスを提供する場合に求めるサービス内容

本学が卒業生に対して転職支援サービスを提供するとした場合に求めるサービス内容としては、「求人情報」が 65.3%で最も多く、「資格試験、公務員講座を開設し、卒業生にも開放してほしい」32.0%、「室蘭工業大学で行われる就職ガイダンス(面接試験の受け方などを含む)、企業セミナー等を、卒業生にも開放してほしい」20.5%の順になっている。

卒業年度で比較すると、「求人情報」に関して平成 24～27 年卒業生が 68.7%と平成 20～23 年卒業生 60.0%よりも 8.7%高くなっている。

問28. 室蘭工業大学が卒業生に対し転職支援サービスを提供するとした場合、どのようなサービスを受けたいと思われるでしょうか(複数回答)

	求人情報	資格試験、公務員講座を開設し、卒業生にも開放してほしい	室蘭工業大学で行われる就職ガイダンス(面接試験の受け方などを含む)、企業セミナー等を、卒業生にも開放してほしい	その他	無回答
全体[219]	65.3	32.0	20.5	5.5	11.0
平成20年～平成23年[70]	60.0	37.1	21.4	2.9	20.0
平成24年～平成27年[147]	68.7	29.3	20.4	6.1	6.8
無回答[2]	—	50.0	—	50.0	—
昼間[108]	63.9	31.5	24.1	5.6	13.9
夜間[11]	72.7	36.4	27.3	—	18.2
大学院[89]	66.3	29.2	18.0	6.7	6.7
無回答[11]	63.6	54.5	—	—	9.1

問29. 卒業生として室蘭工業大学に期待すること、意見・要望など

回答者 219 名の内 74 名から具体的な記述をいただいたものを大まかに分類して掲載した。「社会で活躍できる人材の育成」「広報力の強化」「就職支援改善」「教育改善」「語学力の強化」などの観点から複数の記載があった。また、「本学への期待」や「総合的な観点」からの記載も多数いただいた。

問29. 室蘭工業大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。	
就職支援改善・転職支援	県(道)外から室工大に行っている学生も居ると思うので、幅広い求人情報の開示をしてほしい。
	専門職以外にも、多種の就職ガイダンスを開いてほしい。大学の場所が町から遠いので、学生のアルバイト代だけでは、説明会に行くのに、金銭的な負担が大きい。学生課・教員が、もう少しサポートしてあげてほしい。
	道外へ就職する学生に対しての支援が必要。求人情報や企業のHPを見ていても、実際に見に行かないとわからないし、入ってからのギャップが多い。大学へガイダンスを行うために来て頂く企業だけでなく、いろいろなエンジニアリングで会社があること、ものづくりでも様々な職があることを知るべき。
	現状より、もっと就職活動しやすい環境をつくってもらおう(今まで行われていない企業の企業セミナーを実施する等の、可能性を拓けてもらいたい)。
	専門教育では、特に企業で、その分野を普段の業務に活かしているOBを講師として、知識が活かしていることなどを聞く機会があれば、就労後の具体的なイメージができ、モチベーション向上にもつながるのではと思います。
	就職活動に対して、東京の学生を見ると、室工大の出だしは、明らかに遅い。在学当時は、学校での大規模な説明会等、大変ありがたかったが、東京等の現地への説明会参加を促すこと。それに関する講義等への影響のサポートを強化するべきだと思う。
	より良い就職先とのつながりを増やしてほしい。
	求人情報に関しては、北海道の企業限定でお願いします。就職サイトでは、北海道企業の情報が、少なすぎる印象がある為。
	就職だけではなく、起業の支援も行っていくべき(道内の就職は、極めて門戸が狭く、北大が幅を利かせていて、室工大が入る隙が無い)。この他にも、国公立大学の中で入りやすい大学という実態が、ブランドイメージを破損しているの、偏差値を向上しなければ、経営陣が努力しても、「安い」大学として、足下を見られることになる。
	研究室によっては、学生の就職活動時期に、研究を夜遅くまでやらされている所がある。結局、忙しくて就職活動が出来ず、辞めてしまった人が居る。こういうことがあるので、大学側も、学生の意見等を受け止めてほしい。
卒業生に依頼をかけて、社会人としてのセミナーとか、開いてみては？。	

問29. 室蘭工業大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。	
社会で活躍できる人材の育成	実際に社会に出て役立つ、社会人に必要なことをより多く学べるようにして頂きたいと思います。今後の室蘭工業大学のご発展を願っております。
	<ul style="list-style-type: none"> ・言語問わず、コミュニケーションをもっと密にすると良いと思います。 ・資料作成→プレゼンテーションの流れは、ゼミでももっと鍛えるべきです。これだけでも、業務は非常に円滑になります。
	プログラミングの講義を卒業まで必修にすべき。情電では、途中から電々コースを選ぶと、必修ではなくなつたと記憶している。 会社では、アナログ電子回路の設計に携わっているが、製品のオシロ等を使用しての計測の際も、visual Boxを使用しての自動測定、設計の際もEESCPROMを使用してのデジタル回路系の授業等、プログラミングは、電子系でも必須となっている。
	グローバルな人材育成(海外への発表会等への参加)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・リクルート活動の支援拡大(先輩方の情報公開、在学生と卒業生との橋渡し、他大学との交流→刺激を受ける)。 ・プレゼン、コミュニケーション能力の向上。 以上を是非お願いしたく、宜しくお願ひ致します。
	現在、岡山県の工業の教員は不足しています。工業高校にて、指導の出来る学生も育てて頂きたいです。
	実務に役立つ教育を希望します。これまでの取り組みは、実社会で役に立つものが多いと思うので、更に発展させて下さい。
不祥事に善対する苦言・	学生に対する暴行、アカハラでニュースになるのは、情けないと思います。
	地域性や独自性を強く打ち出した教育を行っていった方が、今後の生き残りに於いて、有利ではないかと思う。また、教育を受ける学生に対して、教員及び学校側の事情によるゴタゴタに巻き込まないよう、配慮を強く求める。これが続くようであれば、地域も学生からも見限られることになりかねず、衰退に陥るのは必然である。ハラスメント等の対応など、担当を設置するなど、自浄作用が働く組織について、良くご検討頂きたい。以上。
	不祥事を起こさないでほしい。
	大学の魅力が、国立であることしかない。不祥事ばかり話を聞くので、もっとプラスの話題を聞きたい。
高度な研究の推進	航空等の最先端の、わくわくするコースが沢山あると良い。学生も増え(若しくは集まってくるし)、その中で良いニュースが出れば、マスメディアへの露出が増えて、知名度が上がってくれないかと思います。
	優秀な人材の輩出。 日本・世界的に有名となる研究成果の発表。
	未来へつなぐ研究等、期待しています。
	今後の日本の航空宇宙技術の発展に、寄与することを期待します。

問29. 室蘭工業大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。	
教育改善	理工学部となることで、個々の学科の専門性が、薄まるのではないかが心配です。少なくとも機電系は、1年目から教育をしないと、他大学卒業生と大きく差が開くことになります。
	他大学に比べ、研究室配属が遅いと思います。専門的な知識を養う上で、1年間は短いと感じます。
	コースが改組されたことから、学生が、興味のある科目を自由に受けられるようなカリキュラムの構成、「学べる」ということを「見える化」してほしい。
総合	地元(出身地)へのUターンしたい時に、Uターン先での企業の中に、先輩在職情報等とかあれば(ミスマッチせず)、馴染めるのかなと思う。仲介して下さる方がいれば、Uターンを考えやすいかなと思う。どの世代も話をよく聞くこと、相手の立場を良く考えて行動すること、責任ある行動・言動・判断力が大事かと思えます。 卒業論文のまとめに苦労しましたが、毎日忙しくて、研究室に泊ってみたり、仲間と食事したり、今となつては、ついこの前のことのようにですが、懐かしいです。先生方のご指導、感謝しています。
	学科名がわかりにくい。 学生課は、もっと学生が過ごしやすいように考えるべき。ミス無くすべき。 学びたいことがあって室工に行ったのに、学力でコース分けすることで、学びたいことができないのはおかしい。入試で受かっているのに、また学力で分けるのはおかしい。
転職支援への要望	転職を考えている為、転職支援サービス開設に期待しています。
	転職支援サービスがあると、非常にありがたいです。
	将来の両親の介護等を考え、北海道に戻ることを検討しています。問28のような、卒業生に対する転職支援サービスがあれば、是非、利用したいと思います。
地域社会・産業との連携	企業との共同研究を充実してほしい。
	室蘭という地域と結びついたカリキュラムが少なく、街の良さに、卒業してから気付くこともあった。せっかく学内に4年以上も住むので、ピロティに掲示するなど、在学中に住み心地、学び心地の良い街、学内へとつなげていく取り組みが広がっていくと、卒業生としてはうれしい限りである。

	問29. 室蘭工業大学に期待すること、ご意見・ご要望などがあれば、自由にお書きください。
本学への感謝・期待	勉学のみではなく、人間性の育てられる大学にして頂ければと思います。
	偏差値の向上。 北海道の経済をリードする地位を築く。→現在は、工業技術×IOTの時代です。向こう10年は、このトレンドが続くと思います。
	少子化で大変ですが、いつまでも存続して下さい。
	私の卒業する時、就職で大変お世話になりました。就職を愛知で希望していた為、学内推薦を頂くことで、金銭的な負担が減り、ありがたかったです。
	年々、学力低下が問題となっているが、北海道は勿論、日本・世界の産業を支える技術者の育成を今後もレベルを維持して行って頂きたい。 (水元町と)本学で学んだ4年間は、自身の財産であり、誇りである為、自分の子供や知人の子供に、是非、進学させたい。
	高専から編入して2年間、お世話になりました。その間、数回の学会出席等、いろいろな経験をさせて頂き、感謝しています。教養、知識以外、人とのコミュニケーションの取り方、社交性等、自分の糧になり、今の職場で役立っています。有難う御座いました。
	室蘭工業大学、母校が無くなってしまわないように頑張ってほしい。
	道立高校に勤めています。進学指導をしていて、これまでは、道内理系大学と言えば室工大・北工大が中心でしたが、今後、千歳科学技術大が公立になることもあり、比較されることが懸念です。同窓としては、胸を張って室工大を生徒・保護者に推すことができるよう、これからも特色ある大学として、教育に取り組んでほしいと思っています。
	更なる発展に期待しています。
	遠い土地に居ても、母校の名前は聞こえてくるのは、とても励みになります。 今、これから、室工大で専門知識を学んだ学生が、私の会社や関連企業に入り、存分に実力を発揮してくれることを期待しています。
遠い地からですが、今後とも活躍を期待します。	
本アンケートをはじめ、大学をより充実させたい思いが感じられ嬉しい。この思いが現実反映されることを強く願います。	
その他	経済的に苦しい学生への支援を充実させるべき(男女・留学生関係なく)。
	自由な校風が壊されているので、自由にできる校風を取り戻してほしい。
	学校祭に、OCをぶつけてはどうでしょうか。研究室の参加もあるし、在校生の刺激にもなると考えています。
	女子が少ないことが気になります。
	学生が講義に集中できるように、エアコンを付けてほしい。
	・防衛省補助金を使うこと。 ・〇〇とやらを辞めさせること。
	女学生は大切にして下さい。
	まず、アンケートの主旨が読み取れなかった(アンケートのお願いには、教育や研究、学生生活に対し、アンケートを実施と記載)。アンケート結果がどう活かされるのか良くわからなく、答えに困るところが多々あった。また、昨今、大学の学科編成を行なおうとしている旨を耳にする。室工大の良さは、専門領域に強い事であり、その知識が、会社で求められていると感じている(リクルータ目線)。そういった良さを消さずに、改革を進めてほしい。
	この度の胆振東部地震により、工大でも大変な状況を迎えていたことと存じます。工大の皆様には、これまで以上に地震に強い大学にしていくよう努力してほしいと思います。
	大学寮での生活は、他の全国の学生とは違い、経験が、なかなか出来るものではないので、自治の委員と話し合いの場をもっと用意して、悪いものは無くし、良いものを残してほしいと思います。今年は、全寮生が授業に出られるよう寮祭を短くしたと聞いています。僕らの時代は、学生室と話し合いすることはほとんど無かったので良いと思います。
このアンケートをインターネット上でできるようにしてほしいです。	

<参考> 問 14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点(全文)

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
みんなが近くに住んでいるので、友人との交流などは取りやすく学生同士が仲良くなれるきっかけとなった。	他の大学や企業との交流が少なかった。世の中の状況などを入れにくい環境だった。
家の設計をみんなで頑張れたこと。ゼミの先生と出会えたこと。	学ぶことが社会へどう反映されるのか知る機会がなかった。大企業に就職することがゴールだと漠然と教えていた。できれば自らやりたいことをやれる起業方法等を学べる機会があっても良いと思う。
希望の就職先に入れたこと。	
困難な授業を乗り越える力がついたところ。筋道を立てて考える力が身についたところ。	特に思いつかない。
特になし。	特になし。
自分は編入生であったが、どの授業のクラスにもなじみやすく、教員も丁寧に教えて頂いた。	学科棟によって設備が違いすぎる。図書館の利用時間が短く、PCの台数、本の種類が少なすぎる、書架もあるが、利用しづらい。学生課の対応悪い。
クマ牧場に行けた。(熊の勉強ができた。自然に触れ学ぶ)。マラソンに参加できた。旋盤の実習(今でも使う)。地域の人達とアルバイトを通じて交流できた。室蘭の明るい部分、暗い部分に直接触れ感じることで人間力がついた。	ギャンブルに走ったり、バイトに夢中になったりする仲間が出てしまった(多かった)。
国立大学であること。トヨタ系の就職先があったこと。	英語の授業が良くなかった。もっと英会話を取り入れた方が良い。
サークル活動を通じて、先輩・後輩との関わり方を学んだ。	東海地方では大学の認知度が低い。
自由な校風が良かった。専門教科は熱意を持って教わった。	教務の対応が良くなった。次第に自由だったものがルールでしぼられ、自由な発想は制限された。専門教科以外の強化にあまり力を入れてなかった。
製鉄所、製銅所の見学ができたこと。	特になし。
同じ考え方を持った友人達と今でも繋がってられる点。	特になし。
所在地、良くも悪くも田舎の学校。自由にできる部分が多く、ストレスがなかった。	就活する時には遠い事がデメリットに感じた。特にものづくりを目指す時に、会社の所在地と離れている事で移動費、宿泊費が多くかかった(交通費の精算を対応してくれる企業が多くなかった(2010当時))。
・専門分野の基礎知識を学べた。 ・友人と協力しないとクリアできない講義やテストがあり、協力する機会があった。	・土地的に若い人同士がたくさん集まる場所や機会が少ない。 ・仕事について考える機会が少なく、将来のイメージができなかった。
就職先の企業で工大出身者が多く、評判も高かった所。	特になし。
力学全般について基礎的な所を全て学べたので、ある程度専門分、野外の事も理解できている。	
・教授の熱意。 ・工作機械を使った授業。	
現在の会社に就職出来たこと。	特になし。
国立大であるため、就職に有利である点。現在の会社にOBが多くいること。	特になし。
夜間主コースだったので、経済的にもアルバイトを通じた経験という面でも非常に充実していた。	単位の取得が困難な科目があった。合格率が悪いので、学生以外に問題があるのではないかと思う。

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
勉学に専念しやすい環境であったことにより学習の習慣がついた。	知名度が低いこと。
入社した会社に同じ大学出身者が多い。	
寮があつて生活費が安くすんだこと。	
・教職員、学生含め、良い人が多かった。 ・良い意味で田舎なので、くだらないことで楽しめる。	・交通手段が不便。車持ちの友人がいないとキツイ。
事務処理でパソコンを使っている。	なし。
地元で国公立なので、お金がそんなにかからない点。	夜間と昼間で、専攻科目が違いすぎるため、卒研で苦勞した。
・就職であまり苦勞をしなかった点(学内推薦が積極的にとれた)。 ・愛知県出身の為、全く異なる環境で学ぶ事ができた事。 ・遊ぶ所が少なく、勉強集中できた。 ・知名度が低いが国立大学の為、出身校の印象が良い。	・14-2にも書いたが知名度が低いこと。
・同窓生が多く、多方面で活躍されている卒業生が多い点。 ・地元を離れ、一人暮らしの学生が多い為、夜間問わず共に生活したことで一生の思い出を共有した仲間に出会えた点(辛いテスト勉強を支え合つたことや朝まで語り明かしたことは今でも鮮明に覚えています)。	・なし。
良くなかった点の理由により、学習時間が削減されたので、その時間で大学とは関係ない活動ができ、その経験が社会に出て非常に役立っている。	高専からの編入であつたが、大学では専門的な学業としては、ほとんど身に付いたものがなかつた。高専の方がレベルが高かつたと感じていたため。
広いキャンパスで自主性を持ちながら大学生活をおくれたこと。	特になし。
・社会人になり、様々な業者と関わっているが、その中で室蘭工業大学出身の方が多く、コミュニケーションを容易に取ることができる。	
あまり多くはありませんが取引先の社内や身内に同じ室工大出身者がおり、お世話になったことがあります。	
サークル活動で、学科や学年を越えた仲間が出来た事。様々な「人」に出会えた事。学校際を続ける事ができたこと。	後半、引きこもりがちになつたこと。でも、そんな時先生にはかなり助けられました。
・様々な出身地の友人と出会えたこと。 ・国立大学であること。	特になし。
下宿の生活やアルバイトなどの様々な経験ができた。多くの人と触れ合い、経験則が増えた。	職業の内容と大学の授業内容が全く合わない。就職の際(教育業界)、サポートに頼らず自力で探した。
・北海道内における知名度の高さ ・JABEE認定を受けられるようなカリキュラムの良さ。	
職場の先輩(同窓)から声をかけられる。	
国公立である点。	
色々な面で名門校である(名前が知られている)。	

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
国立大学のため、就職には有利だった。(会社からの評価も良いような感じです)。	周辺環境がよくない。今思うと、社会人になると、自分の自由な時間がとれないので、大学の時にもう少しプライベートが楽しめる環境があればよかった。それと助教によってはやる気がなく、分かりにくい講義で全然学べないこともあった。
社会に出て、室工出身のつながりを感じるのでよかったと思う。	
大学周辺の学園都市のような雰囲気もあり、研究室等にどっぷりとのめり込むことができたかと思う。	工学分野に不向きなような人材が多くいたようにも思える。
国立大であること。	教室に冷房がなかったこと。
道内の建築業界においては、同大学出身者が多いこと。	
燃焼試験など危険が伴う実験ができる。実験場があるので、そこで学べた。	ネームバリューがない。
就職先にも工大生の先輩がいる。	航空学科には資格取得の優遇がない。
職場でOBが多いこと。	今のところなし。
学費が高くない(私立と比較して)。	
大学内施設を自由に利用できる点。	
夜間の学科でしたが昼間の授業も受講できるなど、自分が受けたい講義を受けることができた点。	就職活動に対する支援が少なかった。
入学の難易度を考えると就職先は充実していると思う。私はその恩恵を受けられたと思います。	
男社会で生き抜く力がつきました。実際に働く環境と似通った男女バランスなのが今すごく役立ってます。後は、一応「国公立」なので、道外での就職の際、比較的楽でした。	理系しかないので、文系の人と触れあう機会がなかったこと。
都内での就職に強い。知名度は高い。研究室の先生がとても熱心に指導して下さいました。その時の経験は活かしている(計算知能研)。	特になし。
同じ業界にOBが多くいること。	特になし。
就職した会社に先輩が多かった。	
ちょっとワスペクトを受ける。	特になし。
室蘭市北海道を知れた、楽しかった。	
交友関係の拡大。	特になし。
大学周辺に遊ぶ所が少なく、勉強や友達との交流に専念できる環境が良かった。	語学に関しては高校生だった頃の方が出来た。
ゼミの経験が今に生きている。	一般の語学をもっとしっかりやらないといけない。
就職活動に有利な点。	特になし。
<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動を充実できたこと。 ・発表資料作成やプレゼンテーションの回数を積めたこと。 ・就職の推薦があったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・偏差値的に自信を持って出身校を言えない。 ・大学時代の出会いが少なかったこと。

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良い点	問14-2 悪かった点
研究設備が充実している所での専門学習ができること。	出身地(道外)の就職状況など地元の先輩がいるかどうか、とか、少ない。とくに中小企業の情報が少ない。大手以外の地元企業にも地元出身者がいることを周知しても(アピールしても)いいのでは。
まわりに何もなくて(娯楽等)、勉強に集中できる点。	引きこもりがちになる点。
国立大学であるため、偏差値が高いと思われること。	特になし。
・ゼミ(研究室)に入り大学院に進学すれば、学会発表等と通して他校と比較しての自分のレベルが判断出来る。	・学部卒だと出来る事が限られてしまう(仕方ないが)。
一般教養をそれなりに身につけられた点。	特になし。
今でも集まる友人ができたこと。	遠い。
基礎的授業から高度な授業まで充実しており施設に歴史を感じた。	語学力(特に英語)をつける授業が稚拙でレベルが低すぎる。論文はほぼ英語なのだから高品質な授業を受ける権利がある。もっと力を入れるべきだった。他の大学の方がグローバル化が進んでいた。残念である。
大学院で恩師に恵まれたこと。	
知人、友人との時間がとてもかけがえのないものになったこと。とても良い職業、職場に就職できたこと。	なし。
道内企業では特に信用される気がする。	
勉強に集中することができた。	東京、札幌等で開かれる勉強会、イベントについて、大学か学生の間で話題がのぼることが少なく、大学外の学びの機会をつくるのに苦労したこと。
・会社に室蘭工大出身の先輩が多数いる。 ・大学近くに友人がいて、良くも悪くも常に共に過ごしたため、一生の友人ができた。	・他大の人とのコミュニケーション不足。 ・視野が広がらない。
親元を離れて生活だったので自炊、家事ができるようになり、家庭を持っても役立てることができた。	室蘭に6年間住んでいたのに北海道を全部巡ることができなかった。
特にありません。	特にありません。
入社した会社に室蘭工大出身の先輩がいたこと。	特になし。
部活に打ち込めた大事な友人が数人できた。比較的自由に研究できた。考える能力がついた。データをまとめたり、文章をつくったり、プレゼンの能力がついた。	希望の学部へ(コースへ)行けなかった。室工に行った目的が半分以上なくなった。学生課のミスが多い、仕事してない、余計な事ばかりしている。学生のことを思っていない。クラブ活動の妨害ばかりする。
・授業の質が高かったのか、同期よりも多くの専門知識スキルを持った状態で仕事を始められた。 ・同期に私大、専門卒が多く、理系、国立大学の院卒という箔が大きいと感じていた。	特になし。
就職に有利だったこと。	
一般教養科目が充実しており、アンテナが広がったと思う。現在の業務に直結している内容について、学校を挙げて取り組んでいたため役立っている。鉄鋼業界では比較的名が知られている。	言い方は悪いが僻地で学会党に参加しなければ、他校と学术交流できず見聞を広げづらい。
会社に同じ大学出身の方がいて、心強いと感じた点。	

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
幅広い科目をしっかりと学べたところ。	知名度が低い。まわりに娯楽施設が少なく、車がないと行動範囲が狭いところ。
社内は本大学のOBが多い。	
人間関係。	立地。
現在の就職先の会社に卒業生が多い。	建築と応用化学の人数を減らし、機械と電気に入れろべき。
・学生という人生の中で大切な時期に、室蘭工大に行けて良かったと思います。自由で自分でやりたい事ができたので。	
	学生の研究に対する積極性がない。
・国立大学。	・北海道内企業への斡旋が少ない。
・専門知識について深く学ぶことが出来た点。 ・研究室配属後、学会や共同研究を通して他校の研究や企業を見ることが出来た点。	無し。
・国公立大として安い学費で学位を取得、資格をとることもできた。 ・思ったより本学OBが社会で活躍している。	・「室蘭」という土地柄、外界の刺激が少なく、あらゆる意味で最先端の情報に触れられず、学生の成長が望めない。 ・大学のブランドイメージが低い(特に本州)このため学歴フィルターで差別がある学生が集まらない。本学の関係者「室蘭工業大学」に誇りを持っていない。
国立理系大学という点で、会社ではそこそこ良い評価を得られた。	
北海道内では知名度のある国立大学である点。	本州での知名度が低い点。
国立大学ということ。工学部電気電子だと就職に有利だった。	
特になし。	教授によって、研究への熱がちがいが、学生への対応も異なり、それが教育としていいのか悩むところである。
・国立であること。 ・非常に優秀である教授の指導を受けることができた(結果、優秀論文発表賞受賞、奨学金全額免除)。 ・大手企業に就職することができた。 ・生涯の友人と出会うことができた。	・知名度が低いこと。 ・偏差値が低いこと。
国立で学費が安かった。	知名度が低い。博士後期に進学しても先がない。
産業界に同窓生、先輩が多く、社会に出た後も大学に関する会話でコミュニケーションがとれる点。	講義では理論を学ぶことが必然的に多くなるが、学んだ知識が社会に出てからどう生きてくるのかが、在学中には見えづらい点。高等技術を学び、すぐ生かしていけるように、さらに産業界と繋がりを持ってほしい。
就職に強かった印象がある。OBのバイブがあるため他大学よりも推薦の幅が広がった。また情報系の教授は寛容的で学生のやりたいイベント事業を多く実施させていただけた。	大学全体としてのコンセプトがよくわからなかった。地方大学としてどういう高校生で教育を進めていくか感じ取れなかった。
就職に有利であること。	OB、OGが他大学と比較して少ないこと。

問14. 室蘭工業大学出身で良かったと思う点、良くなかったと思う点	
問14-1 良かった点	問14-2 良くなかった点
将来の目標を見つけることができた。	修士以降はあまりメリットを感じない。研究を行う上で最適な環境であるとは言い難い(設備、カリキュラム、サポートの面から見て)。
地域の産業と密接に関わる機会が多かった。	どの学年においても必修科目が多かった。選択できる形式が望ましいと思った。
工学の知識の習得ができ、多くの機会において、説明を受ければ原理・機構がある程度は理解できる点。	特に無し。航空宇宙力学の先進国である米国、仏国等との交流ができるようになれば、より良いと思う。
・3DCADなど、製造業で実際に使われているツールを学べる。	・航空コースは、機械コースと異なり、機械の基本的事項の教育が少なかったと思う。一般製造業への展開が難しい。トヨタなどで用いられている手法(DRBFM)など、授業に取り入れるとよいと思います。
・まわりになにもないので勉強しようとするればそれに集中できる。 ・学ぶ意欲があればほとんどのことにチャレンジできる。	寮生活。
・省庁や市町村の公務員との繋がり多いことや、幹部に卒業生が多く、話しやすい。また、企業でも道内であれば、卒業生が多いため、仕事で顔を合わせる際、トラブルになりにくい。 ・他大学に比べて同窓生同士の繋がり強い。	・女性が少なく、地獄絵図のようだった。 ・周囲に何も無い。 ・総合大学にあこがれを抱く。 ・一般的な知名度が不足。
学ぶ自由に溢れているキャンパス。	・コンサルの実務に必要なスキル(CAD、イラストレーター、プレゼン能力、ディスカッション)を学ぶ機会が少ない(無い)と思うから。 ・授業のカリキュラムが公務員向き(養成)すぎている(土木)。
各種実験、講義等から多くの知識を得たこと。	
・JABEE認定プログラムのおかげで技術師の一次試験が免除されるので社会にでて役に立ちます。	・北海道以外での知名度の低さがあり、認知してもらうのに時間がかかる。
会社に先輩が多くいる。	娯楽施設がほとんどない。
研究室で学会に12回参加させて頂いた点。会社で突発的に起こるプレゼンテーションの役割を任せられても、準備さえすればできるという自信を培うことができた。	お酒に強いイコール室工大という風に会社で一部のの人に伝わっており、酒を頻繁にすすめられることがあった。
就職面で言えばすごく有利でした。	
友人がたくさんできた。	教員、職員の学生に対する対応の悪さ。
・大学寮での生活。 ・自由な学生生活。 ・専門的な教授の元でのゼミ、授業。 ・勉強出来る機会が多い。	・多くの人と出会う機会。 ・東京から遠い。 ・インターンの機会が短い。
就職先の会社に室工大OBが多く在籍されていて、室工大出身ということで新人ながら顔を覚えてもらいやすかったこと。	単科大学なので仕方がないが、工業系以外の視点、考え方をヒアリングできる機会がほとんどなかった。会社に入って多面的な見方の重要性を感じているので、他大学との共通講義(TV会議システムを応用するなど)を増やすと良かったと思います。
特にあるません。	特にありません。
特になし。	特になし。
OBが多い。	

室蘭工業大学
「卒業生（平成 20～27 年）アンケート」
集計結果報告書（修正版1）
平成 30 年 12 月
編著：一般社団法人日本能率協会
